

高知大学 教育研究部 総合科学系

黒潮圏総合科学部門年報

高知大学 大学院 総合人間自然科学研究科

黒潮圏総合科学専攻年報

2012 年度

2012 年度年報の発行にあたって



黒潮圏総合科学専攻長
飯國芳明



黒潮圏科学部門長
富永 明

2012 年度は、国内外で黒潮圏総合科学専攻・黒潮圏科学部門を特色づけるさまざまな活動が展開できた年となりました。

まず、海外での活動としては、黒潮圏科学国際シンポジウムは連携関係が 6 年目に入ったピコール大学で、第 6 回大会の開催があげられます。共通テーマは "Ecosystem Management and Conservation Towards Sustainability in the Kuroshio Region" (黒潮圏地域の持続性に向けた生態系の管理と保護) です。このシンポジウムでは、日台比の黒潮圏本流の国・地域にマレーシア・サラワク大学、インドネシア・タンジュンプラ大学を加えた黒潮圏 S 状帯の各機関が参加して、漁業を基礎とした地域経済、海藻・海草資源、農業・林業・漁業に内在する生態系と社会経済、陸域・海域資源管理、健康に有用な生物資源の持続的利用、サンミゲルでの海洋保護とコモンズ管理などをサブ・テーマとした多様で活発な議論が展開されました。シンポジウムはピコール大学全学挙げての企画として運営され、Dr. Fay Lea Patria M. Lauraya 学長をはじめ、顔と顔の見える関係を作り上げるよい契機となりました。

国内の活動としては、共同研究の成果の公表と教育への還元があげられます。2009 年度から 3 年間継続してきたプロジェクト「黒潮圏科学に基づく温暖化適応策の構築」(文科省・特別教育研究経費プロジェクト分) が終了しましたが、この成果を社会的に公表するとともに新しい授業を立ち上げました。研究成果は『海洋と生物』(生物研究者) 201 号 (Vol.34-No.4) に「特集・黒潮圏沿岸海域の温暖化と適応策」として公表しました。この特集は黒潮圏沿岸海域の温暖化と適応を共通の論点として、温暖化最前線の藻場変動と対応策や魚類に及ぼす影響の検討、アユの生物多様性と温暖化の関係、造礁サンゴ群集の変遷や微細構造の解明やサンゴ礁再生の方策の検討、さらには、稲作に及ぼす温暖化影響と対策など、多角的な視点から黒潮圏における温暖化の変化を捉え、適応策を考える試みとなりました。また、「温暖化とどうつきあうか - 生態系の変化と適応策」(共通教育) を開講し、教育への還元も図っています。オムニバスの講義ではありますが、組織的な研究成果が一貫性のある授業の組み立てを可能にしました。

一連の活動には、新しいスタッフの貢献が見逃せません。高橋正征教授、諸岡慶昇教授、千葉修教授の退職の後に、中村洋平講師(魚類生態学)堀美菜助教(地域研究・水産学一般)、加藤元海助教(理論生物学)がそれぞれ 2009 年度から 2011 年度に相次いで着任し、教育研究の新たな組織体制が固まりました。今後は、黒潮圏科学を担う二世世代としての本格的な活動が期待されます。また、人文学部の清家章教授(考古学)が専攻の教員として加わり、黒潮圏の史的な観点からの研究者層にさらに厚みが増しました。

このほか、変わり種の活動として「海遍路」があります。これは山岡耕作教授が始めたユニークな企画です。シーカヤックで四国を一周し、漁村を海から訪問して、「日本という国を様々な視点から見直す」ことを目的としています。本年度は高知沿岸を移動し、あと 2 年かけて四国を一周する予定です。

目次

I. 専攻と部門の概要と特徴	1
1. 「黒潮圏科学」とは	1
2. 専攻組織と教員構成	2
3. 部門組織と教員構成	2
II. 教育活動	6
1. 教育の概要	6
(1) 黒潮圏総合科学専攻	6
(2) 修士課程, 学部等	7
2. 学内助成の獲得	16
(1) 大学改革促進経費	16
(2) 研究科長裁量経費	17
III. 大学院生の活動	18
1. 学位取得者 (2012年9月, 2013年3月)	18
2. 業績	18
(1) 発表論文など (査読審査あり)	18
(2) 発表論文など (査読審査なし)	19
(3) 国際学会発表	19
(4) 国内学会発表	21
(5) その他特筆すべき事項	23
IV. 研究活動	24
1. 学術雑誌の発行	24
(1) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」第6巻1号	24
(2) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」第6巻2号	25
2. 学内助成の獲得	25
3. 部門内研究の推進制度	25
4. 各教員の研究成果	26
(1) 発表論文	26
(2) 学会活動に関する事項	33
(3) その他の研究活動に関する事項	41
(4) 研究費採択状況	43
V. 国際・地域貢献	47
1. 公開講座・委員会活動等	47
(1) 公開講座・講演会・講習会・研修会等	47
(2) 他大学講義等	49
(3) 他機関との連携	50
(4) 委員会・審議会活動	52
(5) 国際交流・国際セミナー	54
(6) 留学生・研究者受け入れ	57
(7) 管理運営 (学内委員会)	58
(8) ボランティア	62
2. シンポジウム・セミナー等	64
(1) 黒潮圏シンポジウム	64
(2) 国際シンポジウム・セミナー	64
(3) その他のシンポジウム	64
(4) 専攻・部門主催公開セミナー	64
VI. マスコミ報道	66
1. 広報・啓発活動	66
2. 新聞報道等	67

1. 専攻と部門の概要と特徴

1. 「黒潮圏科学」とは

黒潮圏総合科学専攻という、みなさんは黒潮を研究しているように思うかも知れません。しかし、私たちは黒潮そのものではなく、「黒潮圏科学」という新しい学問概念を打ち出し、自然と人間の共生を目指す研究を進めています。では、「黒潮圏科学」はどのような学問なのでしょう。

黒潮はフィリピン東沖を起点として台湾付近から南西諸島、そして九州沖や土佐沖を経て房総半島沖まで流れる大海流です。それゆえ、黒潮は周辺地域の気象や、生物の分布、人間の生活などに大きな影響をもたらしています。地理的に黒潮と黒潮の影響を受ける広汎な海域と陸域全体を狭義の黒潮圏域とよびます。そこにはインドネシア、マレーシア、フィリピンなどの熱帯諸国、台湾、中国、本邦などの亜熱帯から温帯までの諸国が含まれています。一方、これらの国々には当然ながら多くの人間が住み、それぞれ様々な人間生活と活動が営まれています。そのため、諸国間で文化や経済面での交流が進むだけでなく、自然破壊や公害、食料不足、疫病などの問題も国境を越えて発生し、拡大してきます。このように、広義の黒潮圏域は、そこにある自然とそこに住む人間の活動および諸問題等を含んだ全体を指すということになります。

広義の黒潮圏域は黒潮で結びついている運命共同体です。そこには、様々な環境や物質、多様な生物と人間を含む地球を構成しているすべての要素が存在しています。そこではまた、地球規模の環境問題、食糧問題、人口問題なども象徴的に表出してきます。これらは1つの地域や国の問題を越え、世界的に取り組んで解決しなければならない大きな課題です。このことは同時に、黒潮圏域を地球全体のモデルとして研究することで、地球規模の諸問題のありかを明らかにし、ひいては解決への道程を導き出せることを示しています。このような見地で、人類が自然と共生し、持続的に生存できる社会のありかたと方向を科学的に研究する学問が必要であり、私たちはこの学問を「黒潮圏科学」と称しています。

「黒潮圏科学」は黒潮圏域の地域の諸問題に必ずしも直接対処するわけではありません。言い換えれば、その場の対症療法的、モグラたたきの対応に終始する学問ではないのです。「黒潮圏科学」では、たとえば、一見別々に起こる諸問題から、どのような人間活動が地球の環境や生態系を攪乱しているのかという根本的な因果関係を明らかにし、人間活動の方向性を転換させることを考えます。また、現在行っている、またはこれから始めようとする人間活動が自然界の正常な物質循環に及ぼす影響を評価し、それが悪い影響であれば、どのような予防策を採ればよいかを考えます。

「黒潮圏科学」を実現するには、問題を俯瞰して把握し、専門分野を越えて分析し、協働して解決の道を探ることが必須です。そのため、「黒潮圏科学」は細分化した従来型の学問ではなく、文理融合した新しい学問分野として創出されました。

以上のような「黒潮圏科学」のもつコンセプトを理解し、対象とするそれぞれの専門研究を深化させつつ、その研究を「黒潮圏科学」の目標につなげて発展させる意欲と想像力、行動力を磨くところ、それが、黒潮圏総合科学専攻です。

Kuroshio Science

We are now faced with critical issues world-wide, such as rapid increases in population, the food crisis, the depletion of natural resources, environmental pollution and global warming. These problems are so complex and extensive that they cannot always be addressed only within classically-defined disciplines. We must consider how

we can harmonize human activities with global ecosystems and what policies and devices are essential to achieve these goals from multiple scientific and sociological standpoints. We have created a new field of study, "Kuroshio Science", in order to realize these goals along the lines of the above concepts. Our mission is to contribute to establishing a sustainable socioeconomic system by which substances may be cycled in natural environments and preserve valuable environments and biological diversity for the next generation.

The Department of Kuroshio Science, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University, is the first educational and academic organization in the world that specializes in "Kuroshio Science". Research is carried out in areas of specialization that cross the boundaries between multidisciplinary sciences concerned with resources, environments, societies, and human health. Included among the broad areas of specialization are fish ecology, plant morphology, cell biology, cell physiology, virology, cetacean population biology, microbiology, pedology, social economics, socio-economic history, meteorology, geology, immunobiology, organic chemistry, molecular genetics, and human care science. The Department of Kuroshio Science also offers curricula that help graduate students to become aware of the harmonious coexistence that occurs between nature and human beings.

2. 専攻組織と教員構成

黒潮圏総合科学専攻は 2 つのコース、4 つの領域、7 つの分野から構成されています。共生科学コースには、流域圏資源科学領域（生物資源生産分野、生物構造機能分野、鯨類資源生態系分野）、流域圏環境科学領域（環境保全分野、環境変動・社会分野）、海洋健康医科学領域（海洋健康医科学分野）、および、人間科学領域（人間科学分野）が配置されています。

専攻の教員は黒潮圏総合科学専攻（博士課程）を担当しますが、ほとんどの教員はそれぞれの専門に関連する学部と修士課程の教育も担当しています。それゆえ、様々な考え方をを持った異なる専門分野の教員が文理を横断した幅広い教育を展開しています。本専攻の学生定員は 1 学年 6 名（収容定員は 6 名×3 学年= 18 名）です。連携および客員を含む 33 名の専攻担当教員のカリキュラム上の配置等は表 1 をご覧下さい。

3. 部門組織と教員構成

黒潮圏総合科学部門は教育研究部の 4 つの学系のうちの総合科学系に属しています。本部門の目的は以下の通りです。

(1) 文理融合および分野俯瞰型の新しい学問として「黒潮圏科学」を推進する。人類が自然・生態系に調和・共生できる社会の実現を目指す研究を行い、多様な専門分野を深化させつつ、その成果と国際ネットワークを活かして国内外の研究機関と連携し、共同研究プロジェクトを企画・実施する。

(2) 専門を深く究めると同時に、その専門分野を越えて俯瞰的視野で問題を把握し、協働して問題を解決する教育・研究を通し、広範な知識を応用できる思考能力と想像力を備え、異文化や多様な自然観・価値観を理解・共有できる国際性豊かな人材を育成する。

「黒潮圏科学」のコンセプトに関連し、台湾およびフィリピン両国の研究機関との国際共同研究に基づき、黒潮圏総合科学部門の研究フィールドとして「黒潮トライアングル」を設定しております（下図を参照）。なお、本部門に所属する 20 名の教員の専門分野は表 2 をご覧下さい。

黒潮圏域と黒潮トライアングルと黒潮S状帯

黒潮圏域という言葉は、広い意味で黒潮の影響を受ける東南アジア地域一帯を含んでいますが、狭い意味では、黒潮が直接に沖を流れ、その影響がより強くもたらされるフィリピン、台湾、本邦の沿岸地域および島嶼を指します。フィリピンのビコール地方（黒潮上流）と台湾の台東県（黒潮中流）および本邦の高知県（黒潮下流）を結んだ地帯を私たちは黒潮トライアングルとよび、「黒潮圏科学」のモデルとなる調査・研究フィールドとしています。本年度からは、このトライアングルにマレーシア、インドネシアを加えた黒潮S状帯を定義しています。

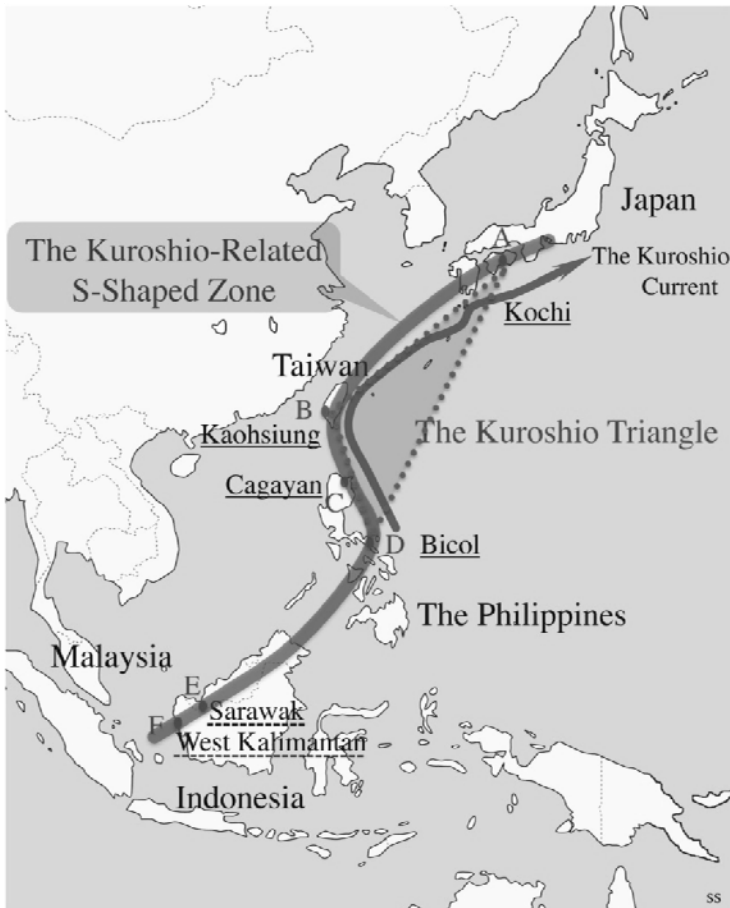


表 1. 黒潮圏総合科学専攻担当教員

2012年4月1日現在 (*10月1日～)

領域	分野	職種	氏名	担当学部	担当修士課程
流域圏資源科学	生物資源生産	教授	ウエダ ヒロシ 上田 拓史	総合研究センター (兼任担当：農学部)	農学
		教授	キノシタ イズミ 木下 泉	総合研究センター (兼任担当：農学部)	農学
		教授	ヤマオカ コウサク 山岡 耕作	農学部	農学
		准教授	イダニ キョウ 伊谷 行	教育学部	教育学
		准教授	ヒラオカ マサノリ 平岡 雅規	総合研究センター (兼任担当：理学部)	理学
		講師	ナカムラ ヨウヘイ 中村 洋平	農学部	農学
		客員教授	マツダ ヒロユキ 松田 裕之	横浜国立大学	
		客員准教授	カンダ マサル 神田 優	黒潮実感センター	
	生物構造機能	教授	オオシマ シュンイチロウ 大島 俊一郎	農学部	農学
		教授	オウダ カスオ 奥田 一雄	理学部	理学
		教授	ハラダ テツオ 原田 哲夫	教育学部	教育学
		准教授	ミネ イチロウ 峯 一郎	理学部	理学
		准教授	セキダ サトコ 関田 諭子	理学部	理学
	鯨類資源生態系	准教授 (連携大学院)	タナベ トシユキ 田邊 智唯	独立行政法人水産総合研究センター	
	流域圏環境科学	環境保全	教授	ガモウ ケイジ 蒲生 啓司	教育学部
准教授			タナカ ソウタ 田中 壮太	農学部	農学
環境変動・社会		教授	イヅミ ヨシアキ 飯國 芳明	人文学部	人文社会科学
		教授	イシカワ シンゴ 石川 慎吾	理学部	理学
		教授	オキ シンイチロウ 荻 慎一郎	人文学部	人文社会科学
		教授	シンボウ デルユキ 新保 輝幸	人文学部	人文社会科学
		教授	タシロウ タカシ 杉谷 隆	人文学部	人文社会科学
		教授	セイメイ アキラ 清家 章*	人文学部	人文社会科学
		教授	タムラ ヤスオキ 田村 安興	人文学部	人文社会科学
		教授	ヨシオ ヒロシ 吉尾 寛	人文学部	人文社会科学
		教授	ヨシクラ シンイチ 吉倉 紳一	理学部	理学
		助教	カトウ モトミ 加藤 元海	理学部	理学
助教		ホリ ミチ 堀 美菜	人文学部	人文社会科学	
海洋健康医科学		海洋健康医科学	教授	オオタニ カスヒロ 大谷 和弘	農学部
	教授		トミナガ アキラ 富永 明	医学部	医科学
	准教授		サボウ サトシ 久保田 賢	医学部	農学
	准教授		タカチ タカヒロ 田口 尚弘	医学部	
人間科学	人間科学	教授	ミヅノ シュンジ 溝渕 俊二	医学部	看護学
		教授	カタオカ マリ 片岡 万里	医学部	看護学

表 2. 黒潮圏科学部門担当教員

2012年4月1日現在

職種	氏名	専門分野
教授	飯國 芳明 <small>イイグニ ヨシアキ</small>	農業経済学
	市村 高男 <small>イチムラ タカオ</small>	日本史
	上田 拓史 <small>ウエダ ヒロシ</small>	動物プランクトン学
	大島 俊一郎 <small>オオシマ シュンイチロウ</small>	病原微生物学
	大谷 和弘 <small>オオタニ カズヒロ</small>	天然物有機化学
	奥田 一雄 <small>オクダ カズオ</small>	植物形態学
	木下 泉 <small>キノシタ イズミ</small>	魚類初期生活史
	新保 輝幸 <small>シンボ テルユキ</small>	環境経済学
	富永 明 <small>トミナガ アキラ</small>	免疫学
	山岡 耕作 <small>ヤマオカ コウサク</small>	魚類生態学
准教授	石塚 悟史 <small>イシヅカ サトシ</small>	産学官民連携
	久保田 賢 <small>クボ タ サトシ</small>	地域保健栄養学
	関田 諭子 <small>セキダ サトコ</small>	細胞生物学
	田口 尚弘 <small>タグチ タカヒロ</small>	分子細胞遺伝学
	田中 壮太 <small>タナカ ソウタ</small>	熱帯土壌学
	平岡 雅規 <small>ヒラオカ マサノリ</small>	海洋植物学
	峯 一郎 <small>ミネ イチロウ</small>	藻類細胞生物学
講師	中村 洋平 <small>ナカムラ ヨウヘイ</small>	魚類生態学
助教	加藤 元海 <small>カトウ モトミ</small>	理論生物学
	堀 美菜 <small>ホリ ミナ</small>	漁村社会学

II. 教育活動

1. 教育の概要

1) 黒潮圏総合科学特論

日時：2011年9月24日（月）～25日（火）

場所：物部キャンパス 黒潮圏総合科学専攻棟
2階会議室

担当教員：飯國芳明，峯一朗，吉尾寛，原田哲夫，荻慎一郎（9月24日），久保田賢，吉倉紳一，中村洋平，加藤元海，田村安興（9月25日）

2) 黒潮圏セミナー

日時：2012年6月27日（水），11月28日（水）

場所：朝倉キャンパス総合研究棟2階プレゼンテーション室，2階会議室1

発表学生：関本岳朗，藤岡博哉，橋口健太郎（6月27日），浅野公人（11月28日）

3) 特別講究

日時：2011年4月25日（水），5月23日（水）

場所：朝倉キャンパス総合研究棟2階プレゼンテーション室

発表学生：福本陽一（4月25日），黒田裕子（5月23日）

4) 講義

○飯國 芳明

地域農林経済論特論

○石川 慎吾

DCセミナー

黒潮圏植生科学特論

特別講究

○伊谷 行

底生生物学特論

○大島 俊一郎

DCセミナー

分子細胞生物学特論

黒潮圏セミナー

○久保田 賢

食品機能科学特論

○新保 輝幸

地域環境経済論特論（演習）

○関田 諭子

黒潮圏総合科学特論

○田口 尚弘

分子細胞遺伝学特論（講義）

黒潮圏総合科学特論（講義）

○富永 明

免疫学特論（演習）

○原田 哲夫

DCセミナー

特別講究

黒潮圏セミナー

○溝渕 俊二

生活環境健康安全科学特論

黒潮圏セミナー

○吉尾 寛

近世東アジア地域社会史特論

(2) 修士課程，学部等

1) 黒潮圏総合科学特論(修士課程黒潮圏準専攻)

日時：2011年9月3日(月)～5日(水)

場所：朝倉キャンパス 総合研究棟 3階 プロジェクト研究室1

担当教員：奥田一雄，杉谷隆，伊谷行，山岡耕作，新保輝幸(9月3日)，富永明，上田拓史，平岡雅規，堀美菜，大島俊一郎(9月4日)，石川慎吾，関田諭子，蒲生啓司，田口尚弘(9月5日)

2) 担当講義，実験，実習

○飯國 芳明

・共通教育

森との共生を探る(講義)

温暖化とどうつきあうか(講義)

黒潮圏科学の魅力(講義)

・学部

ミクロ経済学Ⅰ(人文学部：講義)

基礎演習(人文学部：演習)

専門演習Ⅰ・Ⅱ(人文学部：演習)

卒業論文・専門演習Ⅲ・Ⅳ(人文学部：演習)

・大学院

地域農業構造論特論(修士課程)

地域農業構造論演習Ⅰ(修士課程)

地域農業構造論演習Ⅱ(修士課程)

地域農業構造論演習Ⅲ(修士課程)

○石川 慎吾

・共通教育

学問基礎論(講義)

生物学の基礎(講義)

基礎生物学実験(実験)

・学部

専門情報処理演習(理学部：演習)

基礎ゼミナール(生物科学)(理学部：演習)

生態学(理学部：講義)

植物生態学(理学部：講義)

生物科学実験(理学部：実験)

植物生態学実験(理学部：実験)

卒業研究(理学部：演習)

生物科学課題演習(理学部：演習)

保全生物学(理学部：講義)

卒業研究(理学部：演習)

・大学院

理学特別研究(修士課程：実験)

黒潮圏総合科学特論(修士課程)

保全生態学特論(修士課程：講義)

理学実習Ⅰ(修士課程：実習)

理学実習Ⅱ(修士課程：実習)

理学ゼミナールⅠ(修士課程：演習)

理学ゼミナールⅡ(修士課程：演習)

○伊谷 行

・共通教育

課題探求実践セミナー(教育学部)(演習)

自然の法則(講義)

渚の自然史(講義)

海洋生物学(講義)

海洋生物学基礎実習(実験・実習)

土佐の海の環境学(講義)

・学部

初等理科(教育学部：講義)

生活環境論(教育学部：講義)

環境教育(教育学部：講義)

理科基礎演習Ⅱ(教育学部：演習)

支援実習Ⅰ(教育学部：実習)

支援実習Ⅱ(教育学部：実習)

専門演習Ⅰ(教育学部：演習)

専門演習Ⅱ(教育学部：演習)

生物学Ⅱ(教育学部：講義)

生物学実験Ⅰ(教育学部：実験)

生物学実験Ⅱ(教育学部：実験)

生物学演習Ⅰ(教育学部：演習)

生物学演習Ⅱ(教育学部：演習)

教科内容研究方法論Ⅰ(教育学部：演習)

教科専門演習Ⅲ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅳ（教育学部：演習）
 卒業論文（教育学部：演習）
 自然環境教育論（教育学部：講義）
 環境技術概論（教育学部：講義）
 生物環境学（教育学部：講義）
 生活環境関係題目[生物学概論Ⅱ]（教育学部：講義）
 生物学概論Ⅱ（教育学部：講義）
 生物学実験Ⅰ（教育学部：実験）
 生物学実験Ⅱ（教育学部：実験）
 生物学関係題目（教育学部：演習）
 生物学関係題目（教育学部：演習）
 生物環境学演習（教育学部：演習）
 生物環境学演習（教育学部：演習）
 生物学関係題目[海洋生態学実験Ⅰ]（教育学部：実技）
 生物学関係題目[海洋生態学実験Ⅱ]（教育学部：実技）
 卒業論文（研究）（教育学部：演習）
 ・大学院
 教科内容基礎論（生物学2）Ⅰ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学2）Ⅱ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学2）Ⅲ（修士課程）
 小中学校理科実験演習（修士課程）
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ（修士課程）

 ○上田 拓史
 ・学部
 水界生態学（理学部：講義）
 浮遊生物学（農学部：講義）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文演習Ⅰ（農学部）
 卒業論文演習Ⅱ（農学部）
 ・大学院
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 水族生態学演習Ⅰ（修士課程）

 水族生態学演習Ⅱ（修士課程）
 水族生態学演習Ⅳ（修士課程）

 ○大島 俊一郎
 ・共通教育
 温暖化とどうつきあうか（講義）
 黒潮圏科学の魅力（講義）
 魚と食と健康（講義）
 微生物学概論（講義）
 ・学部
 卒業論文（農学部）
 科学英語Ⅱ（農学部：講義）
 水産微生物学実験（農学部：実験）
 魚類生理学実験（農学部：実験）
 水族病理学実習（農学部：実習）
 魚類防疫学（農学部：講義）
 国際・地域栄養食科学（農学部）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文（農学部）
 卒業論文演習Ⅰ（農学部）
 卒業論文演習Ⅱ（農学部）
 卒業論文演習Ⅰ（農学部）
 ・大学院
 黒潮圏セミナー（修士課程）
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 魚病学演習Ⅲ（修士課程）
 魚病学演習Ⅳ（修士課程）
 魚病学特論Ⅱ（修士課程）
 マリンバイオテクノロジー（修士課程）
 AAP ウイルス免疫学（修士課程）
 農学実験・調査Ⅲ（修士課程）
 科学論文作成法（修士課程）
 研究プレゼンテーション技法Ⅱ（修士課程）

 ○大谷 和弘
 ・共通教育
 学問基礎論（講義）
 黒潮圏科学の魅力（講義）

土佐の海の環境学 I: 柏島の海から考える (講義)
環食同源論入門 (講義)
生命の科学 (講義)

・学部

熱帯環境論 (農学部: 講義)
外国書講読 II (農学部: 講義)
国際農林水産業支援学特論 (農学部: 講義)
植物資源機能科学 (農学部: 講義)
卒業論文 (農学部: その他)
卒業論文演習 I (農学部: 演習)
卒業論文演習 II (農学部: 演習)
海外フィールドサイエンス実習 II (農学部: 実験・実習)
海外フィールドサイエンス実習 III (農学部: 実験・実習)
海外フィールドサイエンス実習 IV (農学部: 実験・実習)
熱帯林業論 (農学部: 講義)

・大学院

国際支援学特別セミナー I (修士課程: 演習)
国際支援学特別セミナー II (修士課程: 演習)
国際支援学特別セミナー III (修士課程: 演習)
国際支援学特別セミナー IV (修士課程: 演習)
海外フィールドサイエンス特別実習 I (修士課程)
海外フィールドサイエンス特別実習 II (修士課程: 実験・実習)
天然生理活性物質科学特論 (修士課程: 講義)
黒潮圏総合科学特別研究 I (修士課程: 実験・実習)
農学実験・調査 III (修士課程: 実験・実習)
科学論文作成法 (修士課程: 演習)
研究プレゼンテーション技法 II (修士課程: 演習)

○荻慎一郎

・共通教育

大学基礎論 (講義)

学問基礎論 (講義)

江戸時代の産業と地域社会 (講義)

古文書を読み楽しむ (講義)

・学部

日本史基礎演習 (人文学部: 演習)
日本近世史演習 I (人文学部: 演習)
日本近世史演習 II (人文学部: 演習)
日本文化史 II (人文学部: 講義)
卒業論文(専門ゼミナール III・IV を含む) (人文学部)

・大学院

近世日本社会史演習 II (修士課程: 演習)

○奥田 一雄

・学部

実験安全教育 (理学部: 実験)
専門情報処理演習 (理学部: 演習)
基礎ゼミナール(生物科学) (理学部: 演習)

細胞生物学 (理学部: 講義)

植物生理学 (理学部: 講義)

生物科学実験 (理学部: 実験)

臨海実習 (理学部: 実習)

細胞生物学実験 (理学部: 実験)

卒業研究 (理学部: 演習)

生物科学課題演習 (理学部: 演習)

生物科学英語ゼミナール (理学部: 演習)

細胞生理学 (理学部: 講義)

卒業研究 (理学部: 演習)

・大学院

理学特別研究 (修士課程: 実験)

黒潮圏総合科学特論 (修士課程)

細胞構築学特論 (修士課程: 講義)

理学実習 I (修士課程: 実習)

理学ゼミナール I (修士課程: 演習)

理学ゼミナール II (修士課程: 演習)

理学特別研究 (修士課程)

○片岡 万里

・学部

高齢者看護学実習（医学部：実習）

高齢者看護学概論(演)（医学部）

高齢者看護援助論(演)（医学部）

高齢者看護援助論(演)（医学部）

高齢者看護学実習（医学部）

国際看護活動論(演)（医学部）

在宅看護学実習Ⅱ（医学部）

統合看護実習（医学部）

卒業研究(演)（医学部）

・大学院

看護倫理（修士課程）

成人・老人看護学特論Ⅱ（修士課程）

成人・老人看護学演習（修士課程）

○加藤 元海

・共通教育

温暖化とどうつきあうか（講義）

黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）

生物科学実験（理学部：実験）

卒業研究（理学部：演習）

生物科学課題演習（理学部：演習）

陸水生物学実習（理学部：実習）

理論生物学（理学部：講義）

卒業研究（理学部：演習）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

理学実習Ⅰ（修士課程：実習）

理学実習Ⅱ（修士課程：実習）

数理生態学特論（修士課程：講義）

理学ゼミナールⅠ（修士課程：演習）

○蒲生 啓司

・共通教育

自然の法則（講義）

物質の科学（講義）

環境化学物質をどう考えるか（講義）

・学部

初等理科（教育学部：実験）

生活環境論（教育学部：講義）

理科基礎演習Ⅱ（教育学部：演習）

支援実習Ⅰ（教育学部：実習）

支援実習Ⅱ（教育学部：実習）

専門演習Ⅰ（教育学部：演習）

教科専門演習Ⅰ（教育学部）

教科専門演習Ⅱ（教育学部）

専門演習Ⅱ（教育学部：演習）

化学Ⅰ（教育学部：講義）

化学Ⅱ（教育学部：講義）

化学Ⅲ（教育学部：講義）

化学演習Ⅰ（教育学部：演習）

化学特講（教育学部：講義）

化学実験Ⅰ（教育学部：実験）

教科内容研究方法論Ⅰ（教育学部：演習）

教科専門演習Ⅲ（教育学部：演習）

教科専門演習Ⅳ（教育学部：演習）

卒業論文（教育学部）

自然環境教育論（教育学部：講義・演習）

化学概論Ⅰ（教育学部：講義）

化学概論Ⅱ（教育学部：講義）

分析化学Ⅰ（教育学部：講義）

化学実験Ⅰ（教育学部：実験）

分離化学（理学部：講義）

・大学院

教材開発演習（理科）Ⅰ（修士課程）

教材開発演習（理科）Ⅱ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅰ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅱ（修士課程）

教科内容基礎論（化学Ⅰ）Ⅲ（修士課程）

小中学校理科実験演習（修士課程）

教育実践研究（理科）Ⅰ（修士課程）

教育実践研究（理科）Ⅱ（修士課程）

課題研究（修士課程）

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ（修士課程）

○木下 泉

- ・ 共通教育
- 温暖化とどうつきあうか (講義)
- 海洋生物学 (講義)
- 自然環境と人間 (講義)
- 海洋生物基礎実習 (全学部：実験・実習)
- ・ 学部
- 魚類学各論 (農学部：講義)
- 卒業論文 (農学部：その他)
- 卒業論文演習Ⅰ (農学部：演習)
- 卒業論文演習Ⅱ (農学部：演習)
- ・ 大学院
- 水族生態学演習Ⅰ (修士課程：その他)
- 水族生態学演習Ⅱ (修士課程：その他)
- 水族生態学演習Ⅳ (修士課程：その他)
- 回遊生物学特論 (黒潮圏総合科学専攻：その他)

○久保田 賢

- ・ 共通教育
- 温暖化とどうつきあうか (講義)
- 黒潮圏科学の魅力 (講義)
- 環食同源論入門 (講義)
- 栄養と代謝 (講義)
- ・ 学部
- 栄養学 (教育学部：講義)
- 栄養学 (教育学部：講義)
- 生物学Ⅰ (医学部)
- 医科生物学実習 (医学部)
- 国際・地域栄養食科学 (農学部)
- ・ 大学院
- 天然生理活性物質科学特論 (修士課程)
- 黒潮圏総合科学特別研究Ⅰ (修士課程)
- 科学実験計画法 (修士課程)
- 農学実験・調査Ⅰ (修士課程)
- 農学実験・調査Ⅱ (修士課程)
- 研究プレゼンテーション技法Ⅰ (修士課程)

○新保 輝幸

- ・ 共通教育
- 温暖化とどうつきあうか (講義)
- 黒潮圏科学の魅力 (講義)
- 土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える (その他)
- ・ 学部
- 環境経済学 (人文学部：講義)
- 専門演習Ⅰ・Ⅱ (人文学部：演習)
- ・ 大学院
- 黒潮圏総合科学特論 (修士課程：講義)

○杉谷 隆

- ・ 共通教育
- 大学基礎論 (講義)
- 学問基礎論 (講義)
- 風景と空間の科学 (講義)
- 風景と空間の科学 (講義)
- 人文科学情報処理 (演習)
- 地誌学 (講義)
- ・ 学部
- 地域研究基礎演習 (人文学部：演習)
- 自然地理学演習Ⅰ (人文学部：演習)
- 自然地理学演習Ⅱ (人文学部：演習)
- 自然地理概論Ⅱ (人文学部：講義)
- 地域環境風土論 (人文学部：講義)
- 地域調査実習Ⅴ (人文学部：演習)
- 地理学文献講読Ⅲ (人文学部：講義)
- 卒業論文(専門ゼミナールⅢ・Ⅳを含む) (人文学部：演習)
- ・ 大学院
- 黒潮圏総合科学特論 (修士課程)

○清家 章

- ・ 共通教育
- 大学基礎論 (講義)
- 学問基礎論 (講義)
- 考古学研究の基礎 (講義)

・学部

日本史基礎演習（人文学部：演習）
考古学Ⅱ（人文学部：講義）
考古学演習Ⅰ（人文学部：演習）
考古学演習Ⅱ（人文学部：演習）
考古学概論Ⅱ（人文学部：講義）
考古学実習Ⅰ（人文学部：演習）
考古学実習Ⅱ（人文学部：演習）
考古学概論Ⅱ（人文学部）
卒業論文(専門ゼミナールⅢ・Ⅳを含む)（人文学部：演習）

○関田 諭子

・共通教育

温暖化とどうつきあうか（講義）
黒潮圏科学の魅力（講義）
基礎生物学実験（実験）（1学期）
基礎生物学実験（実験）（2学期）
大学基礎論（講義）
学問基礎論（演習）

・学部

基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）
生物科学実験（理学部：実験）
臨海実習（理学部：実習）
細胞生物学実験（理学部：実験）
卒業研究（理学部：演習）
生物科学課題演習（理学部：演習） 削除をお願いします
細胞構造学（理学部：講義）
卒業研究（理学部：演習）
・大学院
黒潮圏セミナー（修士課程）
黒潮圏総合科学特論（修士課程）
細胞微細形態学特論（修士課程：講義）
理学実習Ⅰ（修士課程：実習）
理学実習Ⅱ（修士課程：実習）

○田口 尚弘

・共通教育

黒潮圏科学の魅力（講義）
・学部
医科生物学実習（医学部：実験・実習）
生物学入門（医学部：講義）
細胞分子生物学（医学部：講義）
臨床遺伝病学総論（医学部：講義）
細胞分子生物学（理学部：講義）
・大学院
黒潮圏セミナー（修士課程：講義）
黒潮圏総合科学特論（修士課程：講義）

○田中 壮太

・共通教育

課題探求実践セミナー（農学部）（演習）
ライフサイエンスの世界（講義）
黒潮圏科学の魅力（講義）

・学部

食料科学実験Ⅰ（農学部）
外国書講読Ⅰ（農学部：講義）
外国書講読Ⅱ（農学部：講義）
土壌学（農学部：講義）
専門外書講読Ⅱ（農学部：講義）
食料科学応用実験Ⅱ（農学部：実験）
専門外国語Ⅱ（農学部：講義）
生命化学応用実験Ⅱ（農学部：実験）
土壌微生物生態学（農学部：講義）
熱帯生物環境化学（農学部：講義）
海外フィールドサイエンス実習Ⅳ（農学部：実習）
卒業論文（農学部）
卒業論文演習Ⅰ（農学部）
卒業論文演習Ⅱ（農学部）
・大学院
海外フィールドサイエンス特別実習Ⅱ（修士課程）
土壌環境学実験Ⅰ（修士課程）
土壌生態学特論（修士課程）

土壌情報解析学特論 (修士課程)
根圏の科学 (修士課程)
AAP 土壌環境学 (修士課程)
AAP 生物資源管理研究計画法 (修士課程)
AAP 研究プレゼンテーション技法Ⅱ (修士課程)
AAP 科学論文作成法 (修士課程)
AAP 生物資源管理特別演習Ⅰ (修士課程)
AAP 生物資源管理特別演習Ⅳ (修士課程)
土壌環境学演習Ⅰ (修士課程)
土壌環境学演習Ⅱ (修士課程)
土壌環境学演習Ⅳ (修士課程)
植物医学特別研究Ⅰ (修士課程)
AAP 生物資源管理実験・調査Ⅰ (修士課程)
AAP 生物資源管理実験・調査Ⅳ (修士課程)

○田村 安興

・共通教育
大学基礎論 (講義)
社会思想史を学ぶ (講義)
社会史を学ぶ (講義)
・学部
社会科学文献購読 (社会経済：演習)
基礎演習 (人文学部：演習)
専門演習Ⅰ・Ⅱ (人文学部：演習)
卒業論文・専門演習Ⅲ・Ⅳ (人文学部：演習)
日本経済史 (人文学部：講義)
・大学院
総合高知研究 (修士課程)
アカデミック・リサーチ入門 (修士課程)
特別研究Ⅰ (修士課程)
地域流通市場史特論 (修士課程)

○富永 明

・共通教育
黒潮圏科学の魅力 (講義)
・学部
医科生物学実習 (医学部：実験・実習)
臨床遺伝病学総論 (医学部：講義)

生物学Ⅱ (医学部：講義)
細胞分子生物学 (医学部：講義)
細胞分子生物学 (理学部：講義)
・大学院
資源と生命 (修士課程)
海洋生物資源による免疫応答調節 (修士課程)

○中村 洋平

・共通教育
情報処理 (演習)
温暖化とどうつきあうか (講義)
黒潮圏科学の魅力 (講義)
魚と食と健康 (講義)
自然環境と人間 (講義)
土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える (講義)
・学部
科学英語Ⅱ (農学部：講義)
魚類生態学 (農学部：講義)
卒業論文 (農学部)
卒業論文演習Ⅰ (農学部)
卒業論文演習Ⅱ (農学部)
フィールドサイエンス実習 (農学部)
・大学院
水族生態学演習Ⅰ (修士課程)
水族生態学演習Ⅱ (修士課程)
水族生態学演習Ⅳ (修士課程)
水族生態学特論Ⅰ (修士課程)
科学実験計画法 (修士課程)
農学実験・調査Ⅰ (修士課程)
農学実験・調査Ⅱ (修士課程)
研究プレゼンテーション技法Ⅰ (修士課程)
農学実験・調査Ⅲ (修士課程)
科学論文作成法 (修士課程)
研究プレゼンテーション技法Ⅱ (修士課程)

○原田 哲夫

・共通教育
大学基礎論 (講義)

課題探求実践セミナー（教育学部）（演習）
 健康C（講義）
 健康D（講義）
 自然の法則（講義）
 生物時計のはなし（講義）
 ・学部
 初等理科（教育学部：講義）
 子どもの生活と環境（教育学部：講義）
 理科基礎演習Ⅱ（教育学部：演習）
 専門演習Ⅰ（教育学部：演習）
 専門演習Ⅱ（教育学部：演習）
 生物学Ⅰ（教育学部：講義）
 生物学Ⅲ（教育学部：講義）
 生物学実験Ⅱ（教育学部：実験）
 教科内容研究方法論Ⅰ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅲ（教育学部：演習）
 教科専門演習Ⅳ（教育学部：演習）
 卒業論文（教育学部：演習）
 生物環境学（教育学部：講義）
 生活環境関係題目[生物学概論Ⅰ]（教育学部：講義）
 生物学概論Ⅰ（教育学部：講義）
 動物学概論Ⅱ（教育学部：講義）
 生物学関係題目（教育学部：講義）
 生物学実験Ⅰ（教育学部：実験）
 生物学実験Ⅱ（教育学部：実験）
 生物環境学演習（教育学部：演習）
 環境生理学演習Ⅰ（教育学部：演習）
 環境生理学演習Ⅱ（教育学部：演習）
 ・大学院
 教材開発演習（理科）Ⅰ（修士課程）
 教材開発演習（理科）Ⅱ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅰ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅱ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅲ（修士課程）
 教科内容基礎論（生物学Ⅰ）Ⅳ（修士課程）
 小中学校理科実験演習（修士課程）
 教育実践研究（理科）Ⅱ（修士課程）

課題研究（修士課程）
 黒潮圏総合科学特別研究Ⅰ（修士課程）
 黒潮圏総合科学特別研究Ⅱ（修士課程）
 ○平岡 雅規
 ・共通教育
 温暖化とどうつきあうか（講義）
 海洋生物学（講義）
 ・学部
 公開臨海実習（理学部：実習）
 卒業研究（理学部：演習）
 生物科学課題演習（理学部：演習）
 海洋植物学（理学部：講義）
 水産増殖学実習（農学部：実習）
 藻類増殖学（農学部：講義）
 卒業研究（理学部：演習）
 ・大学院
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 植物生態学特論（修士課程：講義）
 理学実習Ⅰ（修士課程：実習）
 理学実習Ⅱ（修士課程：実習）
 ○堀 美菜
 ・共通教育
 学問基礎論（講義）
 魚食文化で世界を見る（講義）
 黒潮圏科学の魅力（講義）
 土佐の海の環境学Ⅰ: 柏島の海から考える（講義）
 ・大学院
 黒潮圏総合科学特論（修士課程）
 ○溝渕 俊二
 ・学部
 身体のしくみ（演習）
 身体の働き（講義）
 薬の効用と看護（講義）
 看護と病態（講義）
 病態と治療（講義）

医療管理学・医療経済学／社会医学通論／地域医療学（医学部）

卒業研究(演)（医学部）

大学基礎論（医学部：演習）

外科学総論（医学部医学科：講義）

成人看護援助論（医学部看護学科：演習）

・大学院

成人・老人看護学特論Ⅰ（修士課程）

成人・老人看護学演習（修士課程）

ウイメンズヘルス論（修士課程）

助産診断・技術学特論Ⅰ（修士課程）

○峯 一朗

・共通教育

大学基礎論（講義）

学問基礎論（講義）

黒潮圏科学の魅力（講義）

生物学の基礎（講義）

基礎生物学実験（実験）

・学部

科学英語（理学部：演習）

専門情報処理演習（理学部：演習）

基礎ゼミナール（生物科学）（理学部：演習）

多様性生物学（理学部：講義）

形態形成学（理学部：講義）

生物科学実験（理学部：実験）

臨海実習（理学部：実習）

細胞生物学実験（理学部：実験）

卒業研究（理学部：演習）

生物科学課題演習（理学部：演習）

科学英語（理学部：演習）

卒業研究（理学部：演習）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

細胞生理学特論（修士課程：講義）

理学実習Ⅰ（修士課程：実習）

理学実習Ⅱ（修士課程：実習）

○山岡 耕作

・共通教育

課題探求実践セミナー（農学部）（演習）

黒潮圏科学の魅力（講義）

土佐の海の環境学Ⅰ：柏島の海から考える（講義）

・学部

卒業論文（農学部）

熱帯環境論（農学部：講義）

魚類学（農学部：講義）

外国書講読Ⅰ（農学部：講義）

外国書講読Ⅱ（農学部：講義）

海外フィールドサイエンス実習Ⅰ（農学部：実習）

海外フィールドサイエンス実習Ⅳ（農学部：実習）

養魚実習（農学部）

卒業論文（農学部）

卒業論文（農学部）

卒業論文演習Ⅰ（農学部）

卒業論文演習Ⅱ（農学部）

・大学院

黒潮圏総合科学特論（修士課程）

国際支援学特別セミナーⅠ（修士課程）

国際支援学特別セミナーⅡ（修士課程）

国際支援学特別セミナーⅢ（修士課程）

国際支援学特別セミナーⅣ（修士課程）

水族生態学演習Ⅰ（修士課程）

水族生態学演習Ⅱ（修士課程）

水族生態学演習Ⅳ（修士課程）

海外フィールドサイエンス特別実習Ⅰ（修士課程）

海外フィールドサイエンス特別実習Ⅱ（修士課程）

水族生態学特論Ⅰ（修士課程）

農学実験・調査Ⅲ（修士課程）

科学論文作成法（修士課程）

研究プレゼンテーション技法Ⅱ（修士課程）

○吉尾 寛

- ・ 共通教育
- 大学基礎論（講義）
- 学問基礎論（講義）
- 映画からみえる中国近世・近現代史の道筋（講義）
- ・ 学部
- 東洋史概論Ⅱ（人文学部：講義）
- 外国史基礎演習（人文学部：演習）
- 東洋近世近代史演習Ⅰ（人文学部：演習）
- 東洋近世近代史演習Ⅱ（人文学部：演習）
- 東洋近世近代史Ⅱ（人文学部：講義）
- アジア文化史Ⅱ（人文学部：講義）
- 卒業論文(専門ゼミナールⅢ・Ⅳを含む（人文学部：演習）
- ・ 大学院
- 特別研究Ⅱ（修士課程）
- 東アジア近世歴史文化論演習Ⅱ（修士課程）
- 東アジア近世歴史文化論（修士課程）

○吉倉 紳一

- ・ 共通教育
- 日本語表現技法（講義）
- 地球科学の基礎（講義）
- 基礎地学実験（実験）
- ・ 学部
- 基礎ゼミナール（地球科学）（理学部：演習）
- 造岩鉱物学（理学部：講義）
- 野外巡検Ⅰ（理学部：実習）
- ケーススタディⅡ（理学部：演習）
- 卒業研究（理学部：演習）
- 火成作用（理学部：講義）
- 地史学（理学部：講義）
- 岩石学実習（理学部：実習）
- ・ 大学院
- 理学特別研究（修士課程：実験）
- 火成岩岩石学特論（修士課程：講義）
- 理学実習Ⅱ（修士課程：実習）
- 理学ゼミナールⅠ（修士課程：演習）

理学ゼミナールⅡ（修士課程：演習）
理学特別研究（修士課程：実験）

○市村 高男

- ・ 共通教育
- 歴史を考える（他学部：講義）
- ・ 学部
- 初等社会科（教育学部：講義）
- 社会科基礎演習Ⅱ（教育学部：演習）
- 専門演習Ⅰ（教育学部：演習）
- 専門演習Ⅱ（教育学部：演習）
- 歴史学概論（教育学部：講義）
- 日本史特講（教育学部：講義）
- 日本史演習（教育学部：演習）
- 日本史各論（教育学部：講義）
- 教科専門演習Ⅲ（教育学部：演習）
- 教科専門演習Ⅳ（教育学部：演習）
- 卒業論文（教育学部：演習）
- 支援実習Ⅰ（教育学部：その他）
- 支援実習Ⅱ（教育学部：その他）
- ・ 大学院
- 教科内容基礎論（日本史）Ⅰ（修士課程：演習）
- 教科内容基礎論（日本史）Ⅱ（修士課程：演習）

2. 学内助成研究の獲得

(1) 大学改革推進経費

課題名：分野横断型調査・研究のためのフィールド実践型教育プログラムの開発・実施

代表者：大島俊一郎

配分額：300,000 円

課題名：シンポジウム、セミナーの開催

配分額：200,000 円

(2) 研究科長裁量経費

課題名：コモンズ資源の統合的管理教育の実現
に向けたシステム開発

配分額：300,000 円

課題名：黒潮圏総合科学専攻及び準専攻の院生の
企画・運営によるシンポジウムの開催

配分額：180,000 円

III . 大学院生の活動

1. 学位取得者 (2012 年 9 月, 2013 年 3 月)

- [1] Febriza Dwiranti : Effects of gametophytes of Ecklonia Kurome on the regulation of blood glucose and lipid in mice (マウスにおけるクロメ配偶体の血糖と脂質の制御への影響)
- [2] Tran Duc Hau : Comparison of the Early Life History of the Ayu between Vietnam and Japan (アユ初期生活史のベトナムと日本間での比較)
- [3] 阿部玲佳 : フィリピン・バタン島の薬用植に関する民族薬学研究ー利用実態の解析と高血圧に対するセルフメディケーションの可能性の検討ー
- [4] 黒田裕子 : 阪神淡路大震災後 17 年経過時における被災者の生活リズム、睡眠健康、心的外傷後ストレス障害に関する疫学的研究
- [5] 田中幸記 : 高知県における藻場の群落構造特性と海洋温暖化に伴う長期的な分布の変遷

2. 業績

(1) 発表論文など (査読審査あり) 黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生

- [1] Miyo Nakade, Osami Akimitsu, Kai Wada, Milada Krejci, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2012) Can breakfast tryptophan and vitamin B6 intake and morning exposure to sunlight promote morning-typology in young children aged 2 to 6 years? Journal of Physiological Anthropology 2012, 31:11. <http://www.jphysiolanthropol.com/content/31/1/11>
- [2] Hitomi Takeuchi, Miyo Nakade, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Tetsuo Harada (2012) Can an integrated intervention on breakfast and following sunlight exposure promote morning-type diurnal rhythms of Japanese University sports club students? Sleep and Biological Rhythms 2012; 10: 255–263.
- [3] Risa Nishihara, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Miyo Nakade, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2012) Effects of makeup, perfume and skincare product usage and hair care regimen on circadian typology, sleep habits and mental health in female Japanese students aged 18-30. Psychology 4 (3): in press, Published Online March 2013 in SciRes (<http://www.scirp.org/journal/psych>)
- [4] Elvira Paul R.V., Sekida S, Okuda K. (2012) Rhizoid Formation in Valonia (Siphonocladales, Chlorophyceae). Phycologia 51(4): 391-402.
- [5] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Yuko Konishi, Mari Tominaga, Akira Tominaga. (2012) Effects of gametophytes of Ecklonia kurome on the levels of glucose and triacylglycerol in db/db prediabetic C57BL/6J and IFN-g KO mice. Int. J. Biomed. Sci. 8: 64-74.

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

- [1] T. KOTEGAWA, S. TANAKA, K. SAKURAI (2011) Soil characteristics of lowland rice fields along topographical positions in an intermountain basin of northern Laos. ペドロジスト, 55(1), 43-54

(2) 発表論文など（査読審査なし）

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

- [1] 山脇京子, 渡部嘉哉, 浅野公人, 峠篤士, 東谷望史, 溝渕俊二 (2012) 抗アトピー性皮膚炎塗布剤としてのユズ種子オイルの可能性. *aromatopia*, 21: 56-59.

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

- [1] 伊谷行・佐藤あゆみ・邊見由美・岡谷英明・道法浩孝・赤松直・中城満・原田哲夫 (2012) 「青少年のための科学の祭典」高知大会 一理科指導力向上の試み一. *高知大学教育実践研究*, 26: 99-103.
- [2] 佐藤あゆみ・伊谷行 (2012) 高知県浦ノ内湾で得られた死殻による絶滅危惧種ヒメアカガイの形態計測. *南紀生物*, 54: 125-127.

(3) 国際学会発表

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

【口頭発表】

- [1] Hiroko Kuroda, Kai Wada, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2012) The current circadian typology and sleep habits of people who experienced the Great Hanshin-Awaji earthquake after becoming adults. International Congress on Chronobiology 2012, Delhi, INDIA
- [2] Tetsuo Harada, Yuki Osumi, Takashi Shiraki, Akane Kobayashi, Takero Sekimoto and Koki Iyota (2012) Abundance of oceanic sea skaters, *Halobates micans* and *H. germanus*, in the tropical Indian Ocean with respect to air temperature and surface chlorophyll and oxygen concentrations BTI'S first Annual World Congress of Biodiversity April 25-28, 2012; Xian, China
- [3] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Yuki Osumi, Takao Ompie Takamasa Ishibashi, Mitsuru Nakajyo and Chihiro Katagiri (2012) Temperature tolerance of oceanic sea skaters, *Halobates* (Heteroptera: Gerridae), and ocean dynamics. 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA
- [4] Tetsuo Harada, Tomoya Furutani, Takashi Shiraki, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Shinya Maihara, Toshiki Tamura (2012) Change in life-history traits of a water strider, *Aquarius paludum* during 1995-2011 in accordance with global warming. 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA
- [5] Takero Sekimoto, Koki Iyota, Yuki Osumi, Takashi Shiraki, Tetsuo Harada (2012) Comparative study on tolerance to sea, brackish and fresh water bodies as habitat in oceanic sea skater of *Halobates micans* and fresh water Halobatinae species *Metrocoris histrio* (Heteroptera: Gerridae). 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA
- [6] Mitsuru Nakajo, Ken Kawasaki (2012) A distinction between universality and particularity of things in science teaching. 7th International Conference on Science Mathematics and Technology Education, November 4-7, 2012, Sultan Qaboos University, Sultan, OMAN.

【ポスター発表】

- [1] Kai Wada, Hiroko Kuroda, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada (2012) The current circadian typology and

sleep habits of people who experienced the Great Hanshin-Awaji earthquake in their childhood.
International Congress on Chronobiology 2012, Delhi, INDIA

- [2] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Yuko Konishi, Mari Tominaga, Akira Tominaga.
(2012) Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the regulation of blood glucose and lipid in mice. The 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference, 2012. July 13-16, Kochi.

(4) 国内学会発表

◆黒潮圏総合科学専攻後期博士課程院生◆

【口頭発表】

- [1] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2012) 水生植物の分布と生育地の水の pH との関連性：光合成炭素源の視点からの検討。日本生態学会中四国支部大会，島根大学，2012年5月13日
- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2012) 河川において水生植物の群落組成を決定する要因。水草研究会，愛媛県総合科学博物館，2012年8月25日
- [3] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2012) 高知県中部にみられるナガエミクリ群落にとっての湧水環境の意義。植生学会，千葉大学，2012年10月14日
- [4] 北村亜希子，渡部嘉哉，中島洋，大島正人，溝渕俊二 (2012) 黒酵母 β -1,3-1,6 グルカンの抗アレルギー塗布剤としての検討。第62回日本アレルギー学会秋期学術大会，2012年11月29日，大阪
- [5] 浅野公人，渡部嘉哉，山脇京子，峠篤士，東谷望史，溝渕俊二 (2013) NC/Nga マウスに対するユズ種子オイルの経口投与によるアトピー性皮膚炎抑制効果に関する研究。第28回日本静脈経腸栄養学術集会，2013年2月22日，金沢
- [6] 原田哲夫，小林茜，和田快，秋光修身，野地照樹，Milada Krejci，中出美代，竹内日登美 (2012) 大学生・専門学校生の運動習慣が朝型夜型度・睡眠習慣・精神衛生に及ぼす影響，第19回日本時間生物学学会学術大会，2012年9月15-16日，札幌
- [7] 黒田裕子，和田快，竹内日登美，原田哲夫 (2012) 阪神淡路大震災後17年経過時における被災者の PTSD スコアについて，日本生理人類学会第66回大会，2012年5月12-13日，長崎
- [8] 原田哲夫，大角裕貴，井餘田航希，白木隆士，斉藤聖枝，中城満，江見健太朗，井出隆太，関本岳朗 (2012) 外洋棲ウミアメンボ類の分布における低温限界と温度耐性について，Blue Earth 2013，2013年3月14日，15日，東京
- [9] 関本岳朗，竹中志保，大角裕貴，井餘田航希，古谷朋也，白木隆士，中城満，片桐千仞，李雅利，Vladimir Kostal，原田哲夫 (2012) 外洋棲ウミアメンボ類における高温耐性能と過冷却点 第57回日本応用動物昆虫学会大会，2013年3月27-28日，湘南
- [10] 大角裕貴，井餘田航希，白木隆士，斉藤聖枝，中城満，江見健太朗，井出隆太，関本岳朗，原田哲夫 (2012) 外洋棲ウミアメンボ類の生息密度と溶存酸素量・クロロフィル量との関係，第57回日本応用動物昆虫学会大会，2013年3月27-28日，湘南
- [11] 中城満，楠瀬弘哲，川崎謙 (2012) 個別と一般の区別を意識させる理科学習指導，日本科学教育学会第36回年会，2012年8月27-29日，東京
- [12] 小坂亮太，中城亜莉沙，中城満 (2012) 科学的思考を育てる理科授業の構成について—話し合い活動の分析から—平成24年度日本理科教育学会四国支部大会，2012年12月15日，高松
- [13] 中城亜莉沙，小坂亮太，中城満 (2012) 児童自らの問題意識が生まれる理科授業構成—「具体から抽象へ」をキーワードとして—平成24年度日本理科教育学会四国支部大会，2012年12月15日，高松
- [14] Febriza Dwiranti，Masanori Hiraoka，Takahiro Taguchi，Yuko Konishi，Mari Tominaga，Akira Tominaga. Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the blood glucose, lipids, and Treg cells in mice. 第11回四国免疫フォーラム、高知大学、2012年6月9日、高知

【ポスター発表】

- [1] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2012) 高知県における水生植物の分布。四国自然史研究センター10周年記念シンポジウム, 高知大学, 2012年12月15日
- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2013) 水生・湿生植物 55 分類群の沈水状態における光合成炭素源。日本生態学会, 静岡市グランシップ, 2013年3月6日
- [3] 山脇京子,渡部嘉哉,浅野公人,峠篤士,東谷望史,溝渕俊二 (2012) ユズ種子オイルの抗アトピー性皮膚炎効果に関する研究. 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2012年5月13日, 大阪
- [4] 山脇京子,寺下憲一郎,青木早苗,高橋永子,溝渕俊二 (2012) ユズ種子オイルの抗アトピー性皮膚炎に対する基礎的研究. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年11月30日, 東京
- [5] Asano Kimito, Watanabe Yoshiya, Yamawaki Kyouko, Touge Atsushi, Toutani Mochifumi, Mizobuchi Shunji (2012) Oral administration of yuzu seed oil inhibits the development of atopic dermatitis-like skin lesions in NC/Nga mice. 第41回日本免疫学会学術集会, 2012年12月6日, 神戸
- [6] 和田快, 井谷和哉, 中出美代, 竹内日登美, 野地照樹, 原田哲夫(2012)「早寝、早起き、朝ごはん」による競技パフォーマンスへの効果 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 2012年6月28~30日, 横浜
- [7] 原田哲夫, 斉藤聖枝, 小笠沙希, 小林茜, 和田快, 秋光修身, 谷脇のぞみ, 中出美代, 竹内日登美 (2012) 高知市の乳幼児及び保護者に対するリーフレットを用いた介入の効果~24時間型関連因子と肥満度に注目して~ 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 2012年6月28~30日, 横浜
- [8] 秋光修身, 小笠沙希, 斉藤聖枝, 和田快, 小林茜, 谷脇のぞみ, 中出美代, 竹内日登美, 原田哲夫 (2012) カテコールアミン前駆芳香族アミノ酸やトリプトファンの朝食摂取と幼児の睡眠健康・精神衛生との関係について 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 2012年6月28~30日, 横浜
- [9] 竹内日登美, 白川義賢, 井谷和哉, 中出美代, 和田快, 野地照樹, 原田哲夫 (2012) 大学生アスリートの競技力の差異による睡眠習慣の違いと、生活改善の取り組みの効果 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 2012年6月28~30日, 横浜
- [10] 和田快, 黒田裕子, 竹内日登美, 原田哲夫(2012) 阪神淡路大震災幼少期被災者の17年経過時の睡眠健康について, 第19回日本時間生物学会学術大会, 2012年9月15-16日, 札幌
- [11] 黒田裕子, 和田快, 竹内日登美, 原田哲夫 (2012) 阪神淡路大震災幼少期被災者の17年経過時のPTSDや朝型夜型度における性差について, 第19回日本時間生物学会学術大会, 2012年9月15-16日, 札幌
- [12] 小林茜, 和田快, 秋光修身, 野地照樹, ミラダ クレイチ, 中出美代, 入吉美貴, 竹内日登美, 原田哲夫 (2012)「早寝、早起き、朝ごはん 3つのお得」リーフレットを教材とした、中学生対象介入授業の効果検証, 第19回日本時間生物学会学術大会, 2012年9月15-16日, 札幌
- [13] 竹内日登美, 中出美代, 和田快, 野地照樹, 原田哲夫 (2012) 海洋調査船による研究航海に参加した学生の航海中及びその前後の睡眠の変化, 第19回日本時間生物学会学術大会, 2012年9月15-16日, 札幌
- [14] 和田快, 黒田裕子, 竹内日登美, 原田哲夫 (2012) 阪神淡路大震災後17年経過時における被災者の睡眠健康及び朝型夜型度について, 日本生理人類学会第66回大会, 2012年5月12-13日, 長

崎

- [15] 関本岳朗, 大角裕貴, 井餘田航希, 白木隆士, 原田哲夫 (2012) 外洋棲ウミアメンボ類と淡水産ウミアメンボ科シミアメンボ間の塩分濃度耐性に関する比較生理学的研究, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 2012年10月5~7日, 習志野
- [16] 大角裕貴, 関本岳朗, 井餘田航希, 白木隆士, 齊藤聖枝, 中城満, 原田哲夫 (2012) 外洋棲ウミアメンボ類の温帯~亜熱帯中央太平洋域(ホノルル・東京間航路)における分布の9月-2-3月間比較, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 2012年10月5~7日, 習志野
- [17] 中城満, 楠瀬弘哲, 国沢亜矢, 川崎謙(2012) メタ認知を促す理科パフォーマンス課題の設定, 日本理科教育学会第62回全国大会, 2012年8月11, 12日, 鹿児島

◆他学部・他研究科の学部生・院生◆

【口頭発表】

- [1] 大西拓也, 上田拓史, 黒田一紀 (2012) 土佐湾に出現する毛顎類の季節的消長と鉛直分布, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 東邦大学, 千葉, 2012年10月6日
- [2] 長谷部有美・関田諭子・奥田一雄 (2012) 「ミドリゲ目海産多核緑藻タンポヤリの分割細胞分裂の過程と特徴」, 日本植物学会中国四国支部第69回大会, 島根大学, 松江市, 2012年5月13日
- [3] 鈴木翔・峯一朗・奥田一雄 (2012) 「pH緩衝剤による海産緑藻バロニアの細胞壁構造の維持」, 日本藻類学会第36回大会, 北海道大学, 札幌市, 2012年7月15日

【ポスター発表】

- [1] Tan Ngai Paing, Lee Chin Tui, Arifin Abdu, Katsutoshi Sakurai, Sota Tanaka (2012) Soil Characteristics in An Oil Palm Field, Central Pahang, Malaysia with Special Reference to Micro Management Site and Slope Position: 日本熱帯生態学会, 横浜, 6月16日
- [2] 佐藤あゆみ・伊谷行・内田喜隆 (2012) 山口県周防灘におけるコフジガイ *Pseudopythina subsinuata* の共生生態. 日本動物学会中国四国地区会第63回大会, 松江, 2012年5月12~13日.
- [3] 佐藤あゆみ・伊谷行・内田喜隆 (2012) シャコに付着するコフジガイの共生生態 ー特に、アナジヤコに付着するマゴコロガイとの比較ー. 2012年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 千葉, 2012年10月5~8日.

(5) その他特筆すべき事項(著書・研究費・受賞・特許申請・社会貢献・その他報告書など)

- [1] Tetsuo Harada, Miyo Nakade, Kai Wada, Aska Kondo, Mari Maeda, Teruki Noji, Hitomi Takeuchi (2012) Mental health of children from a chronobiological and epidemiological point of view. pp. 439-458 (Chapter 22). In: Essential Notes in Psychiatry (ed. Victor Olisah), In Tech, Rijeka, Croatia, pp. 580.
- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾 (2013) 第60回日本生態学会 優秀ポスター賞(水生・湿生植物55分類群の沈水状態における光合成炭素源. 日本生態学会, 静岡市グランシップ, 2013年3月6日)

IV . 研究活動

1. 學術雜誌の発行

(1) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」(ISSN 1882-823X), 第6巻1号

Preface

Hin-Kiu Mok 1

Opening Remarks

Houng-Yung Chen, Kazuo Okuda, Ninfa Pelea 2-5

Summary Report (Session I, III, IV, V, VI)

Hin-Kiu Mok, Keryea Soong, Shui-Kai Chang, Akira Tominaga, Tse-Min Lee and Jeng-Di Lee 6-16

Special Summary Report (Session II)

Effects of Climate Change on Marine, Land and Mountainous Areas in Kuroshio-Related Countries Yoshinori Morooka, Chaolun Allen Chen Reika Abe 17-23

Special Report

Houbihu MPA, the First One Beyond the Paper, in Taiwan Keryea Soong 25-26

Keynote Reports

Turbulent Mixing of the Kuroshio Waters Southeast Taiwan Ruo-Shan Tseng, Huang-Jie Shao, Yu-China Chang, and Luca Centurioni 27-34

Socio-economic, Ecological and Institutional Impacts of Super Typhoon Reming on a Community - based Mangrove Rehabilitation Project in Malinao, Albay, Philippines Raul G. Bradecina, Plutomeo M. Nieves, Ma. Josefa Pelea, Teruyuki Shinbo and Yoshinori Morooka 35-57

Current Status of the Marine Ecosystem and their Vulnerability under the Climate Changes Impacts in the Catba World Biosphere Reserve Nguyen Van Quan 59-66

Articles

Perceptions of Local Residents of the Value of Marine Resources and Protected Areas: The

Case of San Miguel Island, Bicol Cheryl C. Launio, Teruyuki Shinbo, Plutomeo M. Nieves and Yoshinori Morooka 67-74

Dolphinfish Fisheries in Batanes: Coping with Climate Change through Mataw Fishing Tradition Evelyn C. Ame, Maureen A. Aragon Jovita P. Ayson and Reynaldo B. Ame 75-81

Review Articles

Distribution of Fiddler Crabs in East Asia, with a Note on the Effect of the Kuroshio Current Hsi-Te Shih 83-89

Uncontrolled Propagation of a Transplanted Aquaculture Catfish in Cuba and its Utilization for Human Food Satoshi Kubota, Yu Yamamoto, Andres M. Hurtado Consuegra, Bunji Yoshitomi, Yohei Nakamura, Mina Hori, Kazuhiro Otani, Kosaku Yamaoka and Masayuki Mac Takahashi 91-99

Novel Renewable Natural Resource of Deep Ocean Water (DOW) and their Current and Future Practical Applications Masayuki Mac Takahashi and Ping-Yi Huang 101-113

Ulva as a Model for the Study of Environmental Stress in Intertidal Macroalgae Tse-Min Lee, Tsure-Meng Wu, Ming-Shiuan Sung, Yi-Ting Hsu and Kuan-Lin Ho 115-119

Coastal Conflicts and Natural Resources Management in Ponso no Tao-An Institutional Aspect Jeng-Di Lee and Victoriya Venediktova et al. 121-128

Research Notes

Marine Macro-algal Flora of Orchid Island, Taiwan Showe-Mei Lin 129-144

Establishment of a New Culture Model of Intestinal Inflammation Akira Tominaga, Yuko Konishi and Takahiro Tabushi 145-154

Impression of the Symposium

Tran Duc Han and Victoriya Venediktova 155-156

Appendices

Program of the Symposium

List of Participants 157-163

Editorial Policy & Instructions for Authors

164-167

(2) 「黒潮圏科学 Kuroshio Science」(ISSN 1882-823X), 第6巻2号

総説

藻類の抗アレルギー、抗糖尿病、抗腫瘍作用：

—持続型社会を目指して— 富永 明・平岡
雅規・田口尚弘 166-173

中世日本の西の境界領域と黒潮トライア ング
ル研究—鹿児島県三島村硫黄島の調査を
踏まえて— 市村高男 174-187

モンスーン・アジアにおける土地所有権問題の
展望 飯國芳明 188-193

研究論文

高知県横浪林海実験所前の海底環境と魚類群
集 木村 翼・阿部航太郎・松本卓也・中
村洋平 194-206

研究論文(短報)

鏡川上流域における河川環境と底生生物 大
西由希子・加藤元海 208-216

高知県新荘川においてニホンカワウソの存続
に影響を与えた要因 佐藤大紀・加藤元海
218-228

土佐湾のホエールウォッチングにおける鯨類
の出現頻度と気象海洋条件との関係 三
好智子・加藤元海 230-236

研究ノート

高知県におけるアナジャコ *Upogebiamajor* の新

記録 佐藤あゆみ・森永純一 邊見由美・

伊谷 行 238-242

造礁性イシサンゴ染色体研究 田口尚弘
244-248

投稿規定

執筆要項

2. 学内助成研究の獲得

(1) 大学改革推進経費

課題名：黒潮圏科学の創生と共生社会の実現に向
けたフィールド・ネットワーク型研究の推進

代表者：飯國芳明

3. 部門内研究の推進制度

(1) 黒潮講

【採択課題と報告書】

採択課題：四国一周・海遍路

実施者：山岡耕作

配分額：250,000 円

採択課題：ミドリイシサンゴ類の分子細胞遺伝学
(染色体)的研究

実施者：田口尚弘

配分額：配分額：250,000 円

採択課題：フリーズフラクチャー装置の修理

実施者：奥田一雄

配分額：配分額：494,000 円

4. 各教員の研究成果

(1) 発表論文

1) 著書

- [1] 飯國芳明. 第 6 章「三瓶草原の史的展開と過少利用問題」. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 新保輝幸、松本充郎編著), ナカニシヤ出版, 123-142, 2012.
- [2] 飯國芳明. 第 10 章「コモングの類型と現代的課題」. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 新保輝幸、松本充郎編著), ナカニシヤ出版, 203-222, 2012.
- [3] 飯國芳明. 第 12 章第 2 節「持続的な草原利用の条件」. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 新保輝幸、松本充郎編著), ナカニシヤ出版, 252-260, 2012.
- [4] 市村高男. 歴史を見る目、地域を見る目ー古河公方の成立とその歴史的前提ー. 古河の歴史を歩くー古代・中世史に学ぶ. (著者発行者: 古河歴史シンポジウム実行委員会), 高志書院, 2-29, 2012.
- [5] 市村高男. 総論 中世西日本における御影石製石造物の分布と流通経路. 御影石と中世の流通. (著者発行者: 濱 久年), 高志書院, 3-28, 2013.
- [6] 木下泉・飯國芳明. 黒潮圏沿岸海域の温暖化と適応策.
- [7] 木下泉・藤田真二. アユの生物多様性と温暖化.
- [8] 飯國芳明・森牧人・木下泉. 沿岸海域の温暖化と適応.
- [9] 新保輝幸. 序章 フィールドからコモングを考える. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 中西健夫), ナカニシヤ出版, 7-17, 2012.
- [10] 新保輝幸. 第 1 章 サンゴの海の利用の現状と課題ー柏島の海から考える. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 中西健夫), ナカニシヤ出版, 19-41, 2012.
- [11] 新保輝幸. 第 7 章 低島における地下水の富栄養化問題とサンゴ礁劣化. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 中西健夫), ナカニシヤ出版, 143-165, 2012.
- [12] 新保輝幸. 第 11 章 海洋自然資源の長期持続的利用のためのコストの理論. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 中西健夫), ナカニシヤ出版, 223-244, 2012.
- [13] 新保輝幸. 第 12 章 山野河海の持続的利用をめざして. 変容するコモングーフールドと理論のはざまからー. (著者発行者: 中西健夫), ナカニシヤ出版, 245-276, 2012.

2) 著書 (専攻教員分)

- [1] 伊谷行. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. (著者発行者: 日本ベントス学会編 (伊谷は、日本ベントス学会干潟 RDB 編集委員会の 7 名のうちのひとり)), 東海大学出版会, 1-285, 2012.
- [2] 荻慎一郎. 近世鉦山をささえた人びと. (著者発行者: 著者: 荻慎一郎、発行者: 野澤伸平), 山川出版社, 1-106, 2012.
- [3] 田村安興. 近現代. 高知県の歴史. (著者発行者: 田村安興), 山川出版, 272-326, 2012.
- [4] 原田哲夫. アメンボ. 研究者が教える動物飼育 第 2 巻 昆虫とクモの仲間(針山孝彦他・日本比較生理生化学会編). (著者発行者: 南條光章), 共立出版, 67-73, 2012.
- [5] 原田哲夫. Note 2 子どもの生活リズムと介入研究 (原田哲夫、近藤明日香、竹内日登美著). 時間生物学 (海老原史樹文・吉村崇編). (著者発行者: 曾根良介), (株)化学同人, 53-54, 2012.

- [6] 原田哲夫. Mental health of children from a chronobiological and epidemiological point of view. (Chapter 22). Essential Notes in Psychiatry. (著者発行者 : edited by Victor Olisah) , In Tech, Rijeka, Croatia, pp. 580., 439-458, 2012.
- [7] 原田哲夫. Tryptophan and sleep: breakfast tryptophan content and sleep. pp. 473-487 (Chapter 33). Handbook of Nutrition, Diet and Sleep. (著者発行者 : edited by Victor R. Preedy, Vinood B. Patel, Lan-Ahn Le) , Wageningen Academic Publishers, Wageningen, The Netherlands, pp. 500, 473-483, 2012.
- [8] 吉尾寛. 序文、「寨」をめぐる景観についての覚書. 民衆反乱と中華世界.

3) 総説

- [1] 飯國芳明・岡村誠. 何に対する支払なのか. 農業と経済, 78, 13-24, 2012.
- [2] 関田諭子, 奥田一雄. サンゴに共生する褐虫藻の微細構造と生理学的挙動. 海洋と生物, 34, 338-342, 2012.
- [3] Satoshi Kubota, Yu Yamamoto, Andrez M. Hurtado, Bunji Yoshitomi, Yohei Yamamoto, Mina Hori, Kazuhiro Ohtani, Kosaku Yamaoka, Masayuki Mac Takahashi. Uncontrolled Propagation of a Transplanted Aquaculture Catfish in Cuba and Its Utilization for Human Food. Kuroshio Science, 6-1, 91-99, 2012.
- [4] 目崎拓真, 久保田賢. 高知県沿岸海域における造礁サンゴ群集の変遷. 海洋と生物, 34, 332-337, 2012.
- [5] 平岡雅規. アオサ類の同型世代交代と生殖様式. 海洋と生物, 34, 460-467, 2012.
- [6] 平岡雅規・田中幸記・田井野清也・蜂谷潤. 温暖化最前線の藻場変動と対応策. 海洋と生物, 34, 314-318, 2012.
- [7] 平岡雅規. 大型緑藻アオサ類による高効率バイオマス生産. Journal of the Japan Institute of Energy, 91, 1154-1160, 2012.

4) 総説 (専攻教員分)

- [1] 高橋美美、濱田佳代子、平瀬節子、小笠原木綿、杉本佳代、片岡万里、高橋永子、尾原喜美子、青木早苗、池内和代、寺下憲一郎、野村晴香、栗原幸男. 「問題解決能力」の概念に関する検討ー看護の教育に関連した文献を用いてー. 高知大学看護学会, 5, 27-35, 2012.
- [2] 正木治恵、井出訓、片岡万里、辻村真由子、張平平. 高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと、選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国間でのとらえ方の相違から学ぶ. 日本老年看護学会誌, 16, 26-37, 2012.
- [3] 正木治恵、井出訓、片岡万里、飯田貴映子、辻村真由子、張平平. 高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと、選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国間でのとらえ方の相違から学ぶ (第2報) . 日本老年看護学会誌, 17, 18-27, 2012.
- [4] 山脇京子、渡部嘉哉、浅野公人、峠篤志、東谷望史、溝渕俊二. 抗アトピー性皮膚炎塗布剤としてのユズ種子オイルの可能性. aromatopia, 21, 56-59, 2012.

5) 原著論文

- [1] カナク・サハリア、山本幸生、飯國芳明. マイクロファイナンスによる社会関係資本の形成過程. 協同組合研究, 31(1), 80-89, 2012.
- [2] Ueda, H., Nagai, H. Two new species of Halicyclops (Crustacea: Copepoda: Cyclopidae) from Honshu with a key to the species of the genus in Japan. *Species Diversity*, 17, 97-107, 2012.
- [3] 上田拓史. 仔稚魚の餌としての動物プランクトン～とくにカイアシ類ノープリウスについて～. 西海ブロック漁海況調査研究報告, 19, 1-6, 2012.
- [4] Terauchi M, Nagasato C, Kajimura N, Mineyuki Y, Okuda K, Katsaros C, Motomura T. Ultrastructural Study of Plasmodesmata in the Brown Alga *Dictyota dichotoma* (Dictyotales, Phaeophyceae). *Planta*, 236, 1013-1026, 2012.
- [5] Genkai-Kato M., Vadeboncoeur Y., Liboriussen L. & Jeppesen E. Benthic-planktonic coupling, regime shifts, and whole-lake primary production in shallow lakes. *Ecology*, 93, 619-631, 2012.
- [6] 岡拓矢、加藤元海. ヒトにおける体重と体組成の変動パターンおよび体脂肪率に変化を与える要因. *黒潮圏科学*, 5, 161-167, 2012.
- [7] 卯城光、加藤元海. 耕作放棄地における生後 1 年未満のヤギの放牧と除草効果. *黒潮圏科学*, 5, 147-154, 2012.
- [8] 渡邊礼雄、加藤元海. 野外用自動販売機に集まる爬虫両生類と昆虫類. *黒潮圏科学*, 5, 155-159, 2012.
- [9] Tran, H.D., I. Kinoshita, T.T. Ta & K. Azuma. Occurrence of Ayu (*Plecoglossus altivelis*) larvae in northern Vietnam. *Ichthyol. Res*, 59, 169-178, 2012.
- [10] 山本悠, Hurtado, A. M., 中村洋平, 久保田賢, 山岡耕作. キューバ・サパタ湿地における移入ヒレナマズ *Clarias gariepinus* の生態. *黒潮圏科学*, 41761, 175-185, 2012.
- [11] 新保輝幸. 地域社会による温暖化への適応ー鹿児島県与論島におけるサンゴ礁再生への取り組みー. *海洋と生物*, 34(4), 360-365, 2012.
- [12] Sekida S., Takahira M., Horiguchi T. and Okuda K. Effects of high pressure in the armored dinoflagellate *Scrippsiella hexapraeicingula* (Peridinales, Dinophyceae): Changes in thecal plate pattern and microtubule assembly. *J. Phycol.*, 48, 163-173, 2012.
- [13] Kawamura K., Kitamura S., Sekida S., Tsuda M., and Sunanaga T. Molecular anatomy of tunicate senescence: Reversible function of mitochondrial and nuclear genes associated with budding cycles. *Development*, 139, 4083-4093, 2012.
- [14] Elvira P. R., Sekida S. and Okuda K. Rhizoid formation in *Valonia* (Siphonocladales, Chlorophyceae). *Phycologia*, 51 (4), 391-402, 2012.
- [15] Chen J, Guo T, Zhang L, Qin LX, Singer S, Maki RG, Taguchi T, Dematteo R, Besmer P, Antonescu CR. CD133 and CD44 are universally overexpressed in GIST and do not represent cancer stem cell markers. *Genes Chromosomes & Cancer*, 51, 186-195, 2012.
- [16] Dwiranti F, Hiraoka M, Taguchi T, Konishi Y, Tominaga M, Tomimnaga A. Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the levels of glucose and triacylglycerol in db/db, prediabetic C57BL/6J and INF-r KO mice. *International Journal of Biomedical Science*, 8, 64-75, 2012.
- [17] Yang J, Ikezoe T, Nishioka C, Takezaki Y, Hanazaki K, Taguchi T, Yokoyama A. Long-term exposure of

gastrointestinal stromal tumor cells to sunitinib induces epigenetic silencing of the PTEN gene. *International Journal of Cancer*, 130, 959-966, 2012.

- [18] Henze J, Mühlenberg T, Simon S, Grabellus F, Rubin B, Taeger G, Schuler M, Treckmann J, Debiec-Rychter M, Taguchi T, Fletcher JA, Bauer S. p53 modulation as a therapeutic strategy in gastrointestinal stromal tumors. *PLoS One*, 7, 1-12, 2012.
- [19] Niinuma T, Suzuki H, Nojima M, Noshio K, Yamamoto H, Takamaru H, Yamamoto E, Maruyama R, Nobuoka T, Miyazaki Y, Nishida T, Bamba T, Kanda T, Ajioka Y, Taguchi T, Okahara S, Takahashi H, Nishida Y, Hosokawa M, Hasegawa T, Tokino T, Hirata K, Imai K, Toyota M, Shinomura Y. Upregulation of miR-196a and HOTAIR drive malignant character in gastrointestinal stromal tumors. *Cancer Research*, 72, 1126-1136, 2012.
- [20] 田口尚弘、大島俊一郎. 研究材料としてのサンゴ細胞に関する新たな取り組み. *海洋と生物*, 34, 343-347, 2012.
- [21] Sota Tanaka. Influence of Burning Practice in Shifting Cultivation under Different Climates on Nutrient Dynamics. *ペドロジスト*, 55, 403-414, 2012.
- [22] Akira Tominaga, Yuko Konishi, Takahiro Taguchi. Establishment of a new culture model of intestinal inflammation: Autonomous cure of damaged human colon epithelial FPCCK-1-1 cells. *Kuroshio Science*, 6, 145-154, 2012.
- [23] David Lecchini, Laure Carassou, Bruno Frederich, Yohei Nakamura, Suzanne C. Mills, René Galzin. Effects of alternate reef states on coral reef fish habitat associations. *Environmental Biology of Fishes*, 94, 421-429, 2012.
- [24] Masahiro Horinouchi, Prasert Tongnunui, Keisuke Furumitsu, Yohei Nakamura, Kouki Kanou, Atsuko Yamaguchi, Ken Okamoto, Mitsuhiko Sano. Food habits of small fishes in seagrass habitats in Trang, southern Thailand. *Fisheries Science*, 78, 577-587, 2012.
- [25] Yohei Nakamura, Keisuke Hirota, Takuro Shibuno, Yoshiro Watanabe. Variability in nursery function of tropical seagrass beds during fish ontogeny: timing of ontogenetic habitat shift. *Marine Biology*, 159, 1305-1315, 2012.
- [26] Y. Terazono, Y. Nakamura, Z. Imoto, M. & Hiraoka. Fish response to expanding tropical Sargassum beds on the temperate coasts of Japan. *Marine Ecology Progress Series*, 464, 209-220, 2012.
- [27] K. Tanaka, S. Taino, H. Haraguchi, G. Prendergast & M. Hiraoka. Warming off southwestern Japan linked to distributional shifts of subtidal canopy-forming seaweeds. *Ecology and Evolution*, 2, 2854-2865, 2012.
- [28] 久保田賢, 吉富文司, Hurtado, A. M., 大谷和弘, 中村洋平, 堀 美菜, 山本悠, 山岡耕作. サパタ湿地地区における移入ヒレナマズの利用に関する検討. *黒潮圏科学*, 6-1, 197-209, 2012.

6) 原著論文 (専攻教員分)

- [1] Higa, M., Moriyama, N., Ishikawa, S. Effects of complete submergence on seedling growth and survival of five riparian tree species in the warm-temperate regions of Japan. *Journal of Forest Research*, 17, 129-136, 2012.
- [2] 伊谷行・佐藤あゆみ・邊見由美・岡谷英明・道法浩孝・赤松直・中城満・原田哲夫. 「青少年の

- ための科学の祭典」高知大会 ー理科指導力向上の試みー. 高知大学教育実践研究, 26, 99-103, 2012.
- [3] Chapman, J. W., Dumbauld, B. R., Itani, G. and Markham, J. C. An introduced Asian parasite threatens northeastern Pacific estuarine ecosystems. *Biological Invasions*, 14, 1221-1236, 2012.
- [4] 佐藤あゆみ・伊谷行. 高知県浦ノ内湾で得られた死殻による絶滅危惧種ヒメアカガイの形態計測. *南紀生物*, 54, 125-127, 2012.
- [5] 道法浩孝・蒲生啓司・伊谷行. 地域及び自然環境を基盤とした土佐の環境教育ー教材開発力, 授業実践力の育成ー. 高知大学教育実践研究, 26, 149-158, 2012.
- [6] Uchiyama, J., Maeda, Y., Takemura, I., Gamoh, K., Matsuzaki, S., Daibata, M. Analysis of deoxynucleosides in bacteriophages Φ EF24C and K and the frequency of a specific restriction site in the genomes of members of the bacteriophage subfamily Spounavirinae. *Arch. Virol.*, 157, 1587-1592, 2012.
- [7] 清家章. 「各地の古墳 南海」. 『古墳時代研究の現状と課題』上巻, 上巻, 81-97, 2012.
- [8] 清家章. 「高知市朝倉古墳の立地と選地」. 『古墳時代終末期の大型横穴式石室にみる瀬戸内とその周辺の政治的関係』高知大学考古学調査研究報告第10冊, 7-20, 2012.
- [9] 田村安興. 統計上からみる大正期の高知県経済. *土佐史談*, 201, 1-20, 2012.
- [10] 田村安興. 明治太政官制成立過程に関する研究. *高知論叢*, 103, 1-56, 2012.
- [11] Hitomi Takeuchi, Miyo Nakade, Kai Wada, Osami Akimitsu, Milada Krejci, Teruki Noji, Tetsuo Harada. Can an integrated intervention on breakfast and following sunlight exposure promote morning-type diurnal rhythms of Japanese University sports club students?. *Sleep and Biological Rhythms*, 10, 255-263, 2012.
- [12] Miyo Nakade, Osami Akimitsu, Kai Wada, Milada Krejci, Teruki Noji, Nozomi Taniwaki, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. Can breakfast tryptophan and vitamin B6 intake and morning exposure to sunlight promote morning-typology in young children aged 2 to 6 years? <http://www.jphysiolanthropol.com/content/31/1/11>. *Journal of Physiological Anthropology*, 31, 1-11, 2012.
- [13] Kishi, M., Harada, T., Fujisaki, K. Comparing salinity tolerance in embryonic and larval development of two species of water strider, *Aquarius paludum* and *Gerris latiaabdominis* (Heiptera: Gerridae). *Insect Science*, DOI 10.1111/j.1744-7917.2012.01545.x, 1-7, 2012.
- [14] Tetsuo Harada, Kentaro Emi, Ryuta Ide & Takero Sekimoto. Distribution and ecology of oceanic Halobates inhabiting tropical area of Pacific Ocean and their responding system to several environmental factors. The Cruise Report of MR-12-05 (5th November, 2012 ~ 15th February, 2013) A prompt report of MR-12-05-Leg 1 (5th November, 2012 ~ 26th November, 2012), 1, 1-28, 2012.
- [15] Tetsuo Harada, Takero Sekimoto, Takashi Shiraki, Kiyoe Saito, Mitsuru Nakajyo and Masatoshi Moku. Distribution, heat-tolerance and super cooling point of the oceanic sea skaters of Halobates (Heteroptera: Gerridae) inhabiting temperate and subtropical Pacific Ocean along the cruise track from Honolulu to Tokyo. The Cruise Report of KH-12-01-Leg 2, 1, 1-23, 2012.
- [16] 中出美代, 黒谷万美子, 竹内日登美, 原田哲夫. 小売業就業者の睡眠の質と朝食習慣の関係について. *東海学園大学研究紀要*, 17, 71-79, 2012.
- [17] 吉尾寛. 中国の農民運動ー前近代から近代へー. *研究論集*, 9, 1-13, 2012.

7) 書評

- [1] 市村高男. 佐々木倫朗著『戦国期権力佐竹氏の研究』. 史学雑誌, 121, 94-103, 2012.
- [2] 上田拓史. 書評 Biological Oceanography, Second Edition (生物海洋学第2版). 日本プランクトン学会報, 59, 128-129, 2012.

8) 報告

- [1] 受田浩之、石塚悟史. 産学連携学会第10回大会(高知)の報告. 産学連携学-産学連携学会誌-, 9, 1-10, 2012.
- [2] 大谷和弘・久保田賢・山岡耕作・高橋正征. 研究フィールドとしてのキューバ. 黒潮圏科学, 5-2, 211-215, 2012.
- [3] 木下 泉. 平成23年度地方の元気再生事業, 四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出, アユ調査報告書.
- [4] 山本悠, 久保田賢, 山岡耕作. キューバにおけるヒレナマズ *Clarias gariepinus* の食利用に関する検討. 黒潮圏科学, 5-2, 187-196, 2012.
- [5] 久保田賢, 吉富文司, Hurtado, A. M., 大谷和弘, 中村洋平, 堀 美菜, 山本悠, 山岡耕作. サパタ湿地地区における移入ヒレナマズの利用に関する検討. 黒潮圏科学, 5-2, 197-209, 2012.

9) 報告(専攻教員分)

- [1] 石川慎吾・町田華澄・吉原良. 三嶺山城稜線部の自然再生の取り組み. 「どう守る三嶺・剣山系の森と水と土ーシカ被害対策を考えるシンポジウム(5)資料集, 22-29, 2012.

10) その他

- [1] 石塚悟史. イベントレポート 産学連携学会第10回大会 補助金に頼らない地域連携事例の発表が増加. 産学官連携ジャーナル, 7, 45-46, 2012.
- [2] 受田浩之、石塚悟史. トピックス: 第10回大会(高知大会)開催報告. 特定非営利活動法人・産学連携学会 ニュースレター, 16, 1-2, 2012.
- [3] 石塚悟史. 関係機関からのインフォメーション, 高知大学国際・地域連携センター. STEPねつとわーく, 4, 18-19, 2012.
- [4] 石塚悟史. 私のコーディネータ人生. 産学官連携ジャーナル, 12, 16-16, 2012.
- [5] 大谷和弘, 久保田賢, 山岡耕作, 高橋正征. 研究フィールドとしてのキューバ. 黒潮圏科学, 211-215, 2012.

11) その他(専攻教員分)

- [1] 尾原喜美子、高橋永子、青木早苗、池内和代、石上悦子、小笠原木綿、片岡万里、杉本佳代、高橋美美、寺下憲一郎、濱田佳代子、野村晴香. 問題解決能力測定尺度開発に関する報告書. 問題解決能力測定尺度開発に関する報告書, 1-23, 2012.
- [2] 清家章. 「犬山天神山古墳の人骨」. 『徳島新聞』, 9, 2012.
- [3] 清家章. 「研究メモ・コメント」. 『古代学研究』, 194, 30-31, 2012.

[4] 清家章. 「小蓮古墳と朝倉古墳」. 『考古学研究』, 3号, 104-106, 2012.

(2) 学会活動に関する事項

1) 学会発表

- [1] Yoshiaki Iiguni and Yukio Yamamoto. Land Management Issues in Depopulated areas in Japan. The 6th international conference on Kuroshio Science, Bicol University (Bicol, Philippine), 2012年12月1日－2012年12月3日.
- [2] 飯國芳明・南石晃明. 家族農業経営を基礎とした政策理念と制度－スイスの場合－. 地域農林経済学会, 大阪経済大学, 2012年10月20日－2012年10月21日.
- [3] 飯國芳明. 台湾農業経済学会の動向. 日本農業経済学会, 九州大学, 2012年3月28日－2012年3月29日.
- [4] 産学連携学会学金連携システム研究会 小野浩幸、石塚悟史、伊藤正実、内島典子、大塩誠二、加藤博良、川崎一正、川名優孝、北村寿宏、城野理佳子、鞘師守、塩川真澄、白澤司朗、高澤由美、田口幹、丹治惣兵衛、野瀬真治、藤原貴典、森川茂弘、矢島治夫、山村正明、渡辺裕. 学金連携システム研究会 ～2011年活動実績と今後～. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [5] 北村寿宏、河崎昌之、藤原貴典、石塚悟史、李鎔璟、永富太一、大井文香、稲岡美恵子. 関西・中四国支部活動の現状と課題. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [6] 森山洋憲、島村智子、柏木丈弘、石塚悟史、受田浩之、邑田修三、大石雅夫、横田淳子、吉岡三郎、宮村充彦. 碁石茶を巡る産学官連携の取り組み. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [7] 吉用武史、北添英矩、石塚悟史、田村智志、受田浩之. 高知市総合調査の多面的活用～市の計画策定から公開講座、教材作成へ～. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [8] 吉用武史、北添英矩、石塚悟史、受田浩之. 高知大学と自治体の連携事業（概要）. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [9] 吉用武史、北添英矩、石塚悟史、浜田仁司、受田浩之、若林良和. 黒潮町との連携による日本カツオ学会の設立. 産学連携学会, 高知県, 2012年6月14日－2012年6月15日.
- [10] 吉用武史、石塚悟史、北添英矩、吉金優、浜口忠信、樋口慶郎、沢村正義、受田浩之. 人材育成事業のフォローアップのあり方～同窓会組織の取り組みを事例として～. 産学連携学会関西・中四国支部, 岡山県, 2012年12月7日－2012年12月7日.
- [11] 大類穂子・上田拓史. フィリピン, ルソン島汽水域から採集された未記載種の可能性がある *Acartia* 属と *Pseudodiaptomus* 属のカイアシ類について. 2012年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 千葉, 2012年10月6日－2012年10月7日.
- [12] 大西拓也・上田拓史・黒田一紀. 土佐湾に出現する毛顎類の季節的消長と鉛直分布. 2012年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 千葉, 2012年10月6日－2012年10月7日.
- [13] Reika Abe Kazuhiro Ohtani. Antihypertensive effect of medicinal plants on Batan Island, the Philippines: an ethnopharmacological and experimental evaluation. 第6回黒潮圏科学国際シンポジウム, タバコ、フィリピン, 2012年12月2日－2012年12月3日.
- [14] Farah Diba, Fathul Yusro, Yeni Mariani, Kazuhiro Ohtani. Inventory and biodiversity of medicinal plants from tropical rain forest based on traditional knowledge by ethnic dayaknese communities in West

- Kalimantan Indonesia. 第6回黒潮圏科学国際シンポジウム, タバコ、フィリピン, 2012年12月2日-2012年12月3日.
- [15] 鈴木翔, 峯一朗, 奥田一雄. pH 緩衝剤による海産緑藻バロニアの細胞壁構造の維持. 日本藻類学会第36回大会, 北海道, 2012年7月13日-2012年7月15日.
- [16] 加藤元海. レジームシフトが生態系機能に与える影響-湖沼の基礎生産に関して-. 日本生態学会, 龍谷大学(大津), 2012年3月17日-2012年3月21日.
- [17] Tran, H.D.・木下泉・東健作・井関智明・八木佑太・布部淳一. アユの初期発育・成長のベトナムと日本(土佐湾, 瀬戸内海, 日本海)間での比較. 日本魚類学会年会, 山口県, 2012年9月21日-2012年9月24日.
- [18] 木下泉. バイカルカジカ類の遊泳性魚類における仔稚魚の形態と分布の特徴. 日本魚類学会年会シンポジウム: バイカル湖におけるカジカ類の起源, 適応放散と種分化, 山口県, 2012年9月24日-2012年9月24日.
- [19] 木下泉. バイカル湖沖合カジカの初期生活史-タンガニイカアカメ・ニシンと比較して. 稚魚研究会, 福井県, 2012年12月8日-2012年12月9日.
- [20] 武島弘彦・H.D. Tran・木下泉・井口恵一朗・西田睦. ベトナムで採集された分布域最南端のアユの遺伝的特徴. 日本魚類学会年会, 山口県, 2012年9月21日-2012年9月24日.
- [21] 栗原誠・木下泉. 夏季, 土佐湾におけるサンゴ群落前-河口域前・間での加入前仔魚の組成および鉛直分布の比較. 稚魚研究会, 福井県, 2012年12月8日-2012年12月9日.
- [22] 濱本真衣・木下泉. 土佐湾におけるチダイとマダイ仔稚魚の時空間的重なり. 稚魚研究会, 福井県, 2012年12月8日-2012年12月9日.
- [23] 久保田賢・山本悠・Andrés M. Hurtado・吉富文司・中村洋平・堀美奈・大谷和弘・山岡耕作・高橋正征. キューバサパタ湿地において漁獲される移入ヒレナマズの利用. 平成24年度日本水産学会秋季大会, 下関, 2012年9月14日-2012年9月16日.
- [24] 久保田賢・山本悠・山岡耕作. キューバにおけるヒレナマズ *Clarias gariepinus* の食利用に関する検討. 日本調理科学会平成24年度大会, 秋田, 2012年8月23日-2012年8月25日.
- [25] 目崎拓真・田中幸紀・久保田賢. 高知県香南市夜須町手結周辺における造礁サンゴ群集の拡大について. 日本サンゴ礁学会第15回大会, 東京, 2012年11月23日-2012年11月25日.
- [26] 久保田賢・目崎拓真. 次世代シーケンサーを用いた造礁サンゴに共生する褐虫藻の網羅的解析の試み. 日本サンゴ礁学会第15回大会, 東京, 2012年11月23日-2012年11月25日.
- [27] Shinbo, T., R. G. Bradecina and Y. Morooka. Comparative Analysis among SMI, Atulayan and Agojo MPAs in the Lagonoy Gulf: from the Viewpoints of their functions and “The Cost of Commons”. 6th International Conference on Kuroshio Science: Ecosystem management and conservation towards sustainability in the Kuroshio Region, Tabaco City, Albay, Philippines, 2012年12月2日-2012年12月4日.
- [28] Shinbo, T., R. G. Bradecina and Y. Morooka. MPA and Commons: An Analysis of the San Miguel Is. MPA in Bicol from the Viewpoints of Functions, Cost and Benefit. 1st Regional Symposium on Coastal Ecosystem Conservation and Adaptive Management: “New knowledge, new directions, new futures, new challenges,” , Quezon City, Philippines, 2012年11月7日-2012年11月8日.

- [29] 新保輝幸・Raul Giga Bradecina・諸岡慶昇. フィリピン・ピコール地方サンミゲル島の海洋保護区に対する都市住民の支払意思額の評価—二段階二肢選択 CVM と三肢選択 CVM の比較—. 第 62 回地域農林経済学会大会, 大阪府, 2012 年 10 月 20 日—2012 年 10 月 21 日.
- [30] 川村 和夫, 関田諭子, 砂長毅. ホヤの生殖と加齢 —ミトコンドリア遺伝子と核遺伝子の機能相関—. 土佐生物学会, 高知県高知市, 2012 年 12 月 9 日.
- [31] 長谷部有美, 関田諭子, 奥田一雄. ミドリゲ目海産多核緑藻タンポヤリの分割細胞分裂の過程と特徴. 生物系三学会大会中国四国支部・島根大会, 島根, 2012 年 5 月 12 日—2012 年 5 月 13 日.
- [32] 佐藤 友則, 湯浅 健, 関田 諭子, 奥田 一雄. ミドリゲ目緑藻キッコウグサの分割細胞分裂の光阻害とアクチンフィラメントの動態. 日本植物学会第 76 回大会, 兵庫県姫路市, 2012 年 9 月 15 日—2012 年 9 月 17 日.
- [33] 関田諭子, 堀口健雄, 奥田一雄. 渦鞭毛藻 *Spiniferodinium galeiforme* の細胞外被構造. 日本藻類学会第 36 回大会, 北海道札幌市, 2012 年 7 月 13 日—2012 年 7 月 15 日.
- [34] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Yuko Konishi, Mari Tominaga, Akira Tominaga. Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the regulation of blood glucose and lipid in mice. The 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference, 2012.July 13-16, Kochi., 高知, 2012 年 7 月 13 日—2012 年 7 月 16 日.
- [35] Tan Ngai Paing, Lee Chin Tui, Arifin Abdu, Katsutoshi Sakurai, Sota Tanaka. Soil Characteristics in An Oil Palm Field, Central Pahang, Malaysia with Special Reference to Micro Management Site and Slope Position. 日本熱帯生態学会, 横浜, 2012 年 6 月 16 日—2012 年 6 月 17 日.
- [36] Akira Tominaga. Anti-allergic, anti-diabetic, anti-tumor effects of algae with a sustainable society in view. The 6th International Symposium on Kuroshio Science, Bicol University, Tabaco city, Philippines, 2012 年 12 月 2 日—2012 年 12 月 3 日.
- [37] Akira Tominaga, Takahiro Taguchi, Yuko Konishi. Autonomous cure of damaged human colon epithelial FPCCK-1-1 cells by IL-22. 10th Joint Meeting of International Cytokine Society and International Society for Interferon and Cytokine Research, Geneva, Switzerland, 2012 年 9 月 11 日—2012 年 9 月 14 日.
- [38] Yuko Konishi, Takahiro Taguchi, Akira Tominaga. Spirulina complex polysaccharides prevents human colon epithelial cells from apoptotic and necrotic cell death induced by TNF- α in vivo. The 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference, Kochi., 2012 年 7 月 13 日—2012 年 7 月 16 日.
- [39] Tsuru Emi, Sawada Ken, Tominaga Akira, Tsuda Masayuki. Toll-like receptor-mediated selective secretion of cytokine by eosinophils. 第 4 1 回日本免疫学会学術集会, 神戸市、兵庫県, 2012 年 12 月 5 日—2012 年 12 月 7 日.
- [40] Nakaoka, Masahiro, Kentaro Honda, Yohei Nakamura, Mikio Watai, Yoshiyuki Yoshiyuki Tanaka, Gay Amabelle Go, Klenthon Bolisay, Venus Leopardas, Wilfredo Uy, Miguel Fortes. Broad-scale comparisons of species diversity patterns of seagrass community in Okinawa and the Philippines. The 12th International Coral Reef Symposium, Cairns, Australia, 2012 年 7 月 8 日—2012 年 7 月 13 日.
- [41] Honda, Kentaro, Yohei Nakamura, Wilfredo Uy, Darwin Baslot, Allyn Pantallano, Masahiro Nakaoka, Miguel Fortes. Interconnectivity of reef systems of migratory fishes in the Philippines. The 12th International Coral Reef Symposium., Cairns, Australia, 2012 年 7 月 8 日—2012 年 7 月 13 日.

- [42] Yohei Nakamura, Keisuke Hirota, Takuro Shibuno, Yoshiro Watanabe. Variability in nursery function of tropical seagrass beds during fish ontogeny: timing of ontogenetic habitat shift. International Coral Reef Symposium, ケアンズ, 2012年7月8日-2012年7月13日.
- [43] ○堀之内正博 (島大汽セ)・Prasert Tongnunui (Rajamangala University of Technology Srivijaya)・古満啓介 (長崎大水産)・中村洋平 (高知大院黒潮)・加納光樹 (茨城大広域水圏セ)・山口敦子 (長崎大水産)・岡本研・佐野光彦 (東大院農). タイ国トラン沿岸域の造成海草パッチにおける魚類群集構造の変遷について. 日本水産学会, 下関, 2012年9月14日-2012年9月17日.
- [44] 堀之内正博 (島大汽セ)・Prasert Tongnunui (RUT)・古満啓介 (長崎大水産)・中村洋平 (高知大院黒潮)・加納光樹 (茨城大広域水圏セ)・山口敦子 (長崎大水産)・岡本研・佐野光彦 (東大院農). 海草パッチの面積と魚類の種数・個体密度との関係について. 日本水産学会, 東京水産大学, 2012年3月26日-2012年3月28日.
- [45] Febriza Dwiranti, Masanori Hiraoka, Takahiro Taguchi, Yuko Konishi, Mari Tominaga, Akira Tominaga. Effects of gametophytes of *Ecklonia kurome* on the blood glucose, lipids, and Treg cells in mice. 四国免疫フォーラム 2012, 高知県, 2012年6月9日-2012年6月9日.
- [46] 田井野清也・田中幸記・平岡雅規. 温帯・亜熱帯性ホンダワラ類の混生群落における各種の季節的消長. 日本藻類学会第36回大会, 北海道, 2012年7月13日-2012年7月15日.
- [47] 田中幸記・目崎拓真・田井野清也・平岡雅規. 高知県における熱帯性・温帯性ホンダワラ類の分布様式と造礁サンゴ類との関係. 日本藻類学会第36回大会, 北海道, 2012年7月13日-2012年7月15日.
- [48] 永野萌・松下範久・宝月岱造・平岡雅規・畠田智. 種とは? -緑藻アオノリの場合-. 日本藻類学会第36回大会, 北海道, 2012年7月13日-2012年7月15日.
- [49] 村田泰一・平岡雅規・滝尾進・逸見泰久. 有明海におけるグリーンタイドの季節的消長および原因種の特定. 2012年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 千葉県, 2012年10月5日-2012年10月7日.
- [50] Mina Hori, Satoshi Ishikawa. Overview of fisheries policy reform in Kingdom of Cambodia and prospects for better management. 6th International Conference on Kuroshio Science, フィリピン、タバコ市, 2012年12月2日-2012年12月3日.
- [51] Sho Suzuki. Kun-Feng Li, Ichiro Mine*, Kazuo Okuda. Maintenance of cell wall integrity in the giant-celled, green seaweed *Valonia utricularis*. 6th International Conference on Kuroshio Science, BICOL UNIVERSITY TABACO CAMPUS, Tabaco City, Albay, Philippines, 2012年12月2日-2012年12月4日.
- [52] 小田 紗歩里, 峯 一郎, 奥田 一雄. 巨大細胞性黄緑藻フシナシミドロの細胞壁における物質透過性. 日本植物学会第76回大会, 兵庫県立大学姫路書写キャンパス, 兵庫県, 2012年9月15日-2012年9月17日.

2) 学会発表 (専攻教員分)

- [1] Yamanouchi, T., Sakata, Y., Ishikawa, S. Why do endangered aquatic plants which occur frequently in acidic waters, sometimes grow in high pH waters?. The 5th EAFES International Congress, 滋賀県大津, 2012

年3月16日－2012年3月20日.

- [2] 山ノ内崇志・石川慎吾. 高知県中部にみられるナガエミクリ群落にとっての湧水環境の意義. 植生学会第16回大会, 松戸, 2012年10月13日－2012年10月15日.
- [3] 楠瀬雄三・石川慎吾. 高知市種崎海岸における樹木の侵入過程. 緑化工学会第43回大会, 東京, 2012年9月8日－2012年9月10日.
- [4] 細川雅代・石川慎吾. 湿地生絶滅危惧植物マルバノサワトウガラシの生態学的特性. 日本生態学会中国四国地区会, 松江, 2012年5月12日－2012年5月13日.
- [5] 山ノ内崇志・石川慎吾. 水生植物の分布と水のpHとの関連性: 光合成炭素源の視点からの考察. 日本生態学会中国四国地区会, 松江, 2012年5月12日－2012年5月13日.
- [6] 須藤大智・山田菜美・岸大介・平野美奈子・石川慎吾. 放棄棚田における埋土種子集団の動態: 高知県大豊町怒田地区の事例. 日本生態学会中国四国地区会, 松江, 2012年5月12日－2012年5月13日.
- [7] 佐藤あゆみ・伊谷行. ウロコガイ科二枚貝の幼生形態－特にニッポンマメアゲマキとマゴコロガイについて. 土佐生物学会, 高知大学, 2012年12月9日.
- [8] 佐藤あゆみ・伊谷行・内田喜隆. シャコに付着するコフジガイの共生生態－特に、アナジャコに付着するマゴコロガイとの比較－. 2012年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 東邦大学, 2012年10月5日－2012年10月8日.
- [9] 伊谷行. 寄生者・共生者の宿主となる甲殻類. in 一般公開シンポジウム「甲殻類の寄生・共生と生物多様性」. 日本甲殻類学会, 熊本大学, 2012年10月20日－2012年10月21日.
- [10] 伊谷行. 甲殻類 絶滅危惧種の現状 in 「干潟の絶滅危惧動物図鑑」出版記念講演会. 2012年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 東邦大学, 2012年10月5日－2012年10月8日.
- [11] 佐藤あゆみ・伊谷行. 高知県浦ノ内湾におけるマゴコロガイの共生生態. 四国貝類談話会, 高知県, 2012年6月2日－2012年6月2日.
- [12] 山田ちはる・伊谷行・井本善次. 高知県浦ノ内湾におけるミドリイガイ *Perna viridis* の成長量の季節変化. 日本生態学会中国四国地区会第56回大会, 島根大学, 2012年5月12日－2012年5月13日.
- [13] 佐藤あゆみ・伊谷行・内田喜隆. 山口県周防灘におけるコフジガイ *Pseudopythina subsinuata* の共生生態. 日本動物学会中国四国地区会第64回大会, 島根大学, 2012年5月12日－2012年5月13日.
- [14] 荻慎一郎. 秋田藩領八森銀山の研究. 資源・素材学会, 秋田県, 2012年9月11日－2012年9月13日.
- [15] 正木治恵、井出訓、片岡万里、辻村真由子、張平平、飯田貴映子. 高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと、選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国籍間でのとらえ方の相違から学ぶ(第2報)－延命目的で施されていないヨーロッパの国々の捉え方に目を向けて－. 日本老年看護学会, 金沢, 2012年7月14日－2012年7月15日.
- [16] 岡安誠子、吉岡さおり、檜原理恵、西岡まり子、片岡万里、林昌子. 視覚情報の主体的分析による看護学生のアセスメント内容の分析. 日本看護科学学会, 東京, 2012年11月30日－2012年12

月 1 日.

- [17] 高橋美美、片岡万里、坂本雅代、戸田由美子、高橋永子、尾原喜美子、平瀬節子、鮑秀琴、Park Myonghwa. 日本・中国・韓国の看護学生の高齢者イメージの比較と個人要因との関連. 国際看護研究会, 横浜, 2012 年 9 月 15 日.
- [18] GAMOH, K., SUGAI, K. Metabolomic Analysis of Saliva of Autism Spectrum Disorders. 19th International Mass Spectrometry Conference, 日本・京都市, 2012 年 9 月 15 日-2012 年 9 月 21 日.
- [19] 三村一成、西脇芳典、蒲生啓司. Third Hand Smoke による曝露とタバコ煙成分の吸脱着に関する研究. 日本分析化学会第 61 年会, 石川県, 2012 年 9 月 19 日-2012 年 9 月 21 日.
- [20] 内山淳平、竹内 啓晃、加藤伸一郎、蒲生啓司、氏原隆子、内山伊代、大畑雅典. ピロリ菌バクテリオファーゼの分離・解析. 第 4 回ファーゼ研究会, 群馬県, 2012 年 9 月 19 日-2012 年 9 月 21 日.
- [21] 蒲生啓司、三村一成、田島寛子、住田卓也. 化学物質から考える子どもの生活環境. 第 72 回分析化学討論会, 鹿児島県, 2012 年 5 月 19 日-2012 年 5 月 20 日.
- [22] 蒲生啓司、三村一成、西脇芳典. 花粉が運ぶ排気ガス成分. 日本分析化学会第 61 年会, 石川県, 2012 年 9 月 19 日-2012 年 9 月 21 日.
- [23] 道法浩孝、蒲生啓司、伊谷 行. 教員養成における地域資源を基盤とした環境教育プログラムの開発. 平成 24 年度日本教育大学協会研究集会, 鹿児島県, 2012 年 10 月 6 日.
- [24] 西脇芳典、蒲生啓司. 現場検査のための乱用薬物錠剤・粉末の表面増強ラマン分光分析. 日本分析化学会第 61 年会, 石川県, 2012 年 9 月 19 日-2012 年 9 月 21 日.
- [25] 大畷竜午、吉岡健一、玉野井英二、中城 満、蒲生啓司. 高知県における中核的理科教員養成の課題と方策—小学校教員を中心に—. 日本理科教育学会第 62 回全国大会, 鹿児島県, 2012 年 8 月 11 日-2012 年 8 月 12 日.
- [26] 蒲生啓司. 高知大学における理科教員養成拠点構築事業の取組みについて. 平成 24 年度日本教育大学協会研究集会, 鹿児島県, 2012 年 10 月 6 日.
- [27] 草場 実、蒲生啓司. 高等学校化学におけるメタ認知活性化のための学習指導に関する実践的研究. 日本化学会西日本大会, 佐賀県, 2012 年 11 月 10 日-2012 年 11 月 11 日.
- [28] 西脇芳典、蒲生啓司、中澤 隆、辻 幸一. 三次元蛍光 X 線分析による自動車ガラスプリント黒セラミックス片の非破壊異同識別. 第 18 回日本法科学技術学会, 東京都, 2012 年 11 月 15 日-2012 年 11 月 16 日.
- [29] 津野夏海、三村一成、西脇芳典、蒲生啓司. 子どもの生活環境から考えるホルムアルデヒドの吸脱着に関する研究. 日本分析化学会第 61 年会, 石川県, 2012 年 9 月 19 日-2012 年 9 月 21 日.
- [30] 三宅優子, 三村一成, 蒲生啓司. 室内環境中におけるピレスロイド系殺虫剤の揮散と吸着に関する研究. 室内環境学会, 東京都, 2012 年 12 月 15 日-2012 年 12 月 16 日.
- [31] 三上志穂里, 津野夏海, 三宅優子, 蒲生啓司, 道法浩孝, 伊谷 行, 中城 満. 中山間地中学校の理科教育支援を通じた授業実践力の育成. 日本理科教育学会四国支部大会, 香川県, 2012 年 12 月 15 日.
- [32] 宮本友里奈、高橋ゆい、山中考一、蒲生啓司. 理科の授業で科学的思考は身につくのか—評価法の研究—. 日本理科教育学会第 62 回全国大会, 鹿児島県, 2012 年 8 月 11 日-2012 年 8 月 12 日.

- [33] 蒲生啓司. 理科教員養成と教員研修の取組みと課題. 日本化学会西日本大会, 佐賀県, 2012年11月10日-2012年11月11日.
- [34] 津野夏美, 三宅優子, 三上志穂里, 道法浩孝, 蒲生啓司, 伊谷 行. 理科教材開発及び授業研究におけるものづくり技術の導入. 日本産業技術教育学会四国支部大会, 香川県, 2012年12月8日.
- [35] 小林茜, 和田快, 秋光修身, 野地照樹, ミラダ クレイチ, 中出美代, 入吉美貴, 竹内日登美, 原田哲夫. 「早寝、早起き、朝ごはん 3つのお得」リーフレットを教材とした、中学生対象介入授業の効果検証. 第19回日本時間生物学会学術大会, 札幌, 2012年9月15日-2012年9月16日.
- [36] 和田快, 井谷和哉, 中出美代, 竹内日登美, 野地照樹, 原田哲夫. 「早寝、早起き、朝ごはん」による競技パフォーマンスへの効果. 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 横浜, 2012年6月28日-2012年6月30日.
- [37] Tetsuo Harada, Yuki Osumi, Takashi Shiraki, Akane Kobayashi, Takero Sekimoto and Koki Iyota. Abundance of oceanic sea skaters, *Halobates micans* and *H. germanus*, in the tropical Indian Ocean with respect to air temperature and surface chlorophyll and oxygen concentrations. BTI'S first Annual World Congress of Biodiversity April 25-28, 2012; Xian, China, Xian, China, 2012年4月25日-2012年4月28日.
- [38] Tetsuo Harada, Tomoya Furutani, Takashi Shiraki, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Shinya Maihara, Toshiki Tamura. Change in life-history traits of a water strider, *Aquarius paludum* during 1995-2011 in accordance with global warming. 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA, 2012年8月19日-2012年8月25日.
- [39] Takero Sekimoto, Koki Iyota, Yuki Osumi, Takashi Shiraki, Tetsuo Harada. Comparative study on tolerance to sea, brackish and fresh water bodies as habitat in oceanic sea skater of *Halobates micans* and fresh water Halobatinae species *Metrocoris histrio* (Heteroptera: Gerridae). 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA, 2012年8月19日-2012年8月25日.
- [40] Tetsuo Harada, Shiho Takenaka, Takero Sekimoto, Yuki Osumi, Takao Ompie Takamasa Ishibashi, Mitsuru Nakajyo and Chihiro Katagiri. Temperature tolerance of oceanic sea skaters, *Halobates* (Heteroptera; Gerridae), and ocean dynamics. 24th International Congress of Entomology, Daegu, KOREA, Daegu, KOREA, 2012年8月19日-2012年8月25日.
- [41] Kai Wada, Hiroko Kuroda, Hitomi Takeuchi, Tetsuo Harada. The current circadian typology and sleep habits of people who experienced the Great Hanshin-Awaji earthquake in their childhood. International Congress on Chronobiology 2012, Delhi, INDIA, 2012年10月3日-2012年10月7日.
- [42] 秋光修身, 小笠沙希, 齊藤聖枝, 和田快, 小林茜, 谷脇のぞみ, 中出美代, 竹内日登美, 原田哲夫. カテコールアミン前駆芳香族アミノ酸やトリプトファンの朝食摂取と幼児の睡眠健康・精神衛生との関係について. 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 横浜, 2012年6月28日-2012年6月30日.
- [43] 竹内日登美, 中出美代, 和田快, 野地照樹, 原田哲夫. 海洋調査船による研究航海に参加した学生の航海中及びその前後の睡眠の変化. 第19回日本時間生物学会学術大会, 札幌, 2012年9月15日-2012年9月16日.

- [44] 関本岳朗, 大角裕貴, 井餘田航希, 白木隆士, 原田哲夫. 外洋棲ウミアメンボ類と淡水産ウミアメンボ科シマアメンボ間の塩分濃度耐性に関する比較生理学的研究. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 習志野, 2012年10月5日-2012年10月7日.
- [45] 大角裕貴・関本岳朗・井餘田航希・白木隆士・斉藤聖枝・中城満・原田哲夫. 外洋棲ウミアメンボ類の温帯～亜熱帯中央太平洋域(ホノルル・東京間航路)における、分布・高温耐性・過冷却点における2季節間比較. 2012年度土佐生物学会例会, 高知県高知市, 2012年12月9日.
- [46] 原田哲夫, 斉藤聖枝, 小笠沙希, 小林茜, 和田快, 秋光修身, 谷脇のぞみ, 中出美代, 竹内日登美. 高知市の乳幼児及び保護者に対するリーフレットを用いた介入の効果～24時間型関連因子と肥満度に注目して～. 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 横浜, 2012年6月28日-2012年6月30日.
- [47] 和田快, 黒田裕子, 竹内日登美, 原田哲夫. 阪神淡路大震災後17年経過時における被災者の睡眠健康及び朝型夜型度について. 日本生理人類学会第66回大会, 長崎, 2012年5月12日-2012年5月13日.
- [48] 和田快, 黒田裕子, 竹内日登美, 原田哲夫. 阪神淡路大震災幼少期被災者の17年経過時の睡眠健康について. 第19回日本時間生物学会学術大会, 札幌, 2012年9月15日-2012年9月16日.
- [49] 原田哲夫, 小林茜, 和田快, 秋光修身, 野地照樹, Milada Krejci, 中出美代, 竹内日登美. 大学生・専門学校生の運動習慣が朝型夜型度・睡眠習慣・精神衛生に及ぼす影響. 第19回日本時間生物学会学術大会, 札幌, 2012年9月15日-2012年9月16日.
- [50] 竹内日登美, 白川義賢, 井谷和哉, 中出美代, 和田快, 野地照樹, 原田哲夫. 大学生アスリートの競技力の差異による睡眠習慣の違いと、生活改善の取り組みの効果. 日本睡眠学会第37回定期学術大会, 横浜, 2012年6月28日-2012年6月30日.
- [51] Asano Kimito, Watanabe Yoshiya, Yamawaki Kyouko, Touge Atsushi, Toutani Mochifumi, Mizobuchi Shunji. Oral administration of yuzu seed oil inhibits the development of atopic dermatitis-like skin lesions in NC/Nga mice. 第41回日本免疫学会学術集会, 神戸, 2012年12月5日-2012年12月7日.
- [52] 山脇京子, 寺下憲一郎, 青木早苗, 高橋永子, 溝渕俊二. ユズ種子オイルの抗アトピー性皮膚炎に対する基礎的研究. 第32回日本看護科学学会学術週間, 東京, 2012年11月30日-2012年12月1日.
- [53] 山脇京子, 渡部嘉哉, 浅野公人, 峠篤志, 東谷望史, 溝渕俊二. ユズ種子オイルの抗アトピー性皮膚炎効果に関する研究. 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会, 大阪, 2012年5月12日-2012年5月13日.
- [54] 北村亜希子, 渡部嘉哉, 中島洋, 大島正人, 溝渕俊二. 黒酵母 β -1,3-1,6グルカンの抗アレルギー塗布剤としての検討. 第62回日本アレルギー学会秋期学術大会, 大阪, 2012年11月29日-2012年12月1日.
- [55] 宮本美緒, 渡部嘉哉, 田中 肇, 小松郁子, 尾仲 隆, 藤田 竜, 宮原五彦, 伊與木美保, 渡部嘉哉, 田辺裕久, 溝渕俊二. 黒酵母 β -グルカンの胃瘻あるいは経鼻経管投与による高齢者のNK活性への影響. 第27回日本静脈経腸栄養学会, 神戸, 2012年2月23日-2012年2月24日.
- [56] 吉尾寛. 山本憲関係資料の史的価値について. 高知大学・安徽大学歴史系共催定期講演会, 中国・合肥, 2012年6月27日-2012年6月27日.

[57] 吉尾寛. 中国農民運動. 現代中国農民運動の意義, 京都, 2012年7月15日.

3) 学会主催等

- [1] 飯國 芳明: 特別セッション: 欧州における家族経営論と人材育成の社会的システム. 主催. 大阪経済大学, 2012年10月19日-2012年10月20日.
- [2] 石塚 悟史: 産学連携学会第10回大会. 共催. 高知県立県民文化ホール(グリーンホール)高知会館, 2012年6月14日-2012年6月15日.
- [3] 木下 泉: 日本魚類学会年会シンポジウム: バイカル湖におけるカジカ類の起源, 適応放散と種分化. 主催. 山口県, 2012年9月24日.
- [4] 富永 明: 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference. 主催. Central Public Hall of Kochi City Culture Plaza, CUL-PORT, Kochi, Japan, 2012年7月13日-2012年7月16日.
- [5] 中村 洋平: 第39回国魚類研究会. 主催. 国民宿舎土佐, 2012年3月17日-2012年3月18日.
- [6] 中村 洋平: JICA 集団研修. 主催. 高知県黒潮実感センター、黒潮生物研究所、高知大学, 2012年6月28日-2012年6月30日.
- [7] 平岡 雅規: 温暖化と海洋生物の研究会. 主催. 北海道, 2012年7月17日.

4) 学会主催等(専攻教員分)

- [1] 伊谷 行: 日本甲殻類学会第50回大会一般公開シンポジウム「甲殻類の寄生・共生と生物多様性」. 主催. 熊本大学, 2012年10月21日.
- [2] 蒲生 啓司: CST 交流会 in 高知. 主催. 高知県, 2012年7月28日.
- [3] 清家 章: 第3回海洋考古学会. 主催. 高知大学人文学部, 2012年9月8日-2012年9月9日.
- [4] 原田 哲夫: 第4回高知大学京都大学生理生態学セミナー[夏の学校]. 主催. Umibeno-Kajyuen”, Conference Hall (1F), (2012年9月1-2日、海辺の果樹園2階、会議室), 2012年9月1日-2012年9月2日.
- [5] 吉尾 寛: 高知人文社会科学会の創設と記念シンポジウムの開催. 主催. 高知大学メディアホール, 2013年3月16日.

(3) その他の研究活動に関する事項

1) 受賞

- [1] 石塚 悟史: イノベーションコーディネータ賞・科学技術振興機構理事長賞. 産学官連携コーディネータ活動. 2012年12月.

2) 特許

- [1] 石塚 悟史: 金星製紙株式会社、高知大学、金沢大学、岐阜市、福井大学. 中村裕之、日下幸則、菅沼成文、櫻井克年、康峪梅、秋丸国広、弘田量二、石塚悟史、永井博弼、稲垣直樹、田中宏幸、竹之内渉、上阪茂実. アレルギー発症予防用フィルター. 取得済. 2012年5月.
- [2] 大島 俊一郎: 伊方サービス株式会社、菅原卓也、山内聡、西脇寿. 門田歩、菅原卓也、山内聡、西脇寿、川合研兒、大島俊一郎. 免疫蛋白質の産生促進剤. 未取得. 2011年9月.

3) 特許（専攻教員分）

- [1] 溝渕 俊二：国立大学法人高知大学、株式会社高南メディカル。溝渕俊二、渡部嘉哉、宮原五彦、宮本美緒、岡田悟志。セロトニン生合成促進剤。未取得。2012年2月。
- [2] 溝渕 俊二：国立大学法人高知大学。溝渕俊二、渡部嘉哉、大島正人、中島洋。創傷治療外用剤。未取得。2012年6月。
- [3] 溝渕 俊二：国立大学法人高知大学、馬路村農業協同組合。溝渕俊二、渡部嘉哉、東谷望史、峠篤志、浅野公人。抗酸化剤。未取得。2012年9月。
- [4] 溝渕 俊二：国立大学法人高知大学、医療法人弘心会、株式会社高南メディカル。溝渕俊二、渡部嘉哉、田島弘、岩瀬利郎、堀江靖廣、宮原五彦、岡田悟志、宮本美緒。抗精神病薬。未取得。2012年10月。

(4) 研究費採択状況

1) 科学研究費補助金

〈研究代表者〉

- [1] 飯國 芳明：土地所有権の形骸化:モンスーン・アジア的病理の解明と対策. 挑戦的萌芽, 2012年-2013年, 120万円.
- [2] 市村 高男：西日本における中世石造物の成立と地域的展開. 基盤研究(B), 2011年-2013年, 1460万円.
- [3] 奥田 一雄：褐虫藻とサンゴの細胞共生の成立・維持・破綻に関する微細形態学的研究. 基盤研究 (C), 2012年-2014年, 286万円.
- [4] 加藤 元海：生態系におけるレジームシフト現象の数理的解明. 若手研究 (B), 2012年-2015年, 280万円.
- [5] 木下 泉：バカル・ガジカ類の著しい適応放散を繁殖生態・初期生活史・遺伝子の多様性から探る. 基盤研究(B)海外, 2009年-2012年, 1565万円.
- [6] 久保田 賢：網羅的遺伝子解析による褐虫藻動態解明～「サンゴ-褐虫藻」共生系研究の新戦略提案～. 挑戦的萌芽研究, 2012年-2014年, 280万円.
- [7] 中村 洋平：海洋汚染が熱帯魚類資源の成育場への加入に及ぼす影響. 若手 B, 2012年-2014年, 330万円.
- [8] 堀 美菜：東南アジアの魚価決定機構における小規模漁業者と仲買業者の関係. 若手研究(B), 2012年-2015年, 110万円.
- [9] 伊谷 行：海洋外来寄生虫のインパクト. 基盤 C, 2012年-2014年, 260万円.

〈研究分担者〉

- [1] 飯國 芳明：次世代農業経営革新のための人材育成システム構築に関する学際的国際共同研究. 基盤研究 (A), 2011年-2013年, 70万円.

- [2] 飯國 芳明：ポリバレント化する農業・農村経済学とその総合化. 基盤研究(B), 2010年-2012年, 17万円.
- [3] 大島 俊一郎：細菌の外膜タンパク質GAPDHによる広範な感染症の予防. 基盤B, 2011年-2013年, 150万円.
- [4] 奥田 一雄：細胞微細構造・細胞壁多糖およびゲノム情報で探る褐藻類多細胞進化の鍵. 基盤研究 (B), 2010年-2012年, 78万円.
- [5] 奥田 一雄：微生物ナノファイバー紡糸装置における繊維排出機構の解明. 基盤研究 (C), 2012年-2014年, 52万円.
- [6] 奥田 一雄：黒潮流域の新たな環境指標種：囊(のう)状緑藻による潮間帯劣化の進行評価と越境対策. 基盤研究 (B), 2011年-2013年, 5万円.
- [7] 田中 壮太：チーク植林による生態系修復過程40年の検証. 基盤B海外学術, 2012年-2014年, 120万円.
- [8] 田中 壮太：ハノイの廃棄物処分場周辺農耕地土壌における水銀汚染の実態把握とその対策. 基盤C, 2010年-2012年, 20万円.
- [9] 中村 洋平：タイ沿岸域の環境修復・水産資源回復に寄与する海草藻場造成デザインの探求. 海外基盤B, 2010年-2012年, 70万円.
- [10] 平岡 雅規：海洋バイオマス利用によるCO₂削減およびバイオ燃料化に関する研究. 基盤研究 B, 2010年-2012年, 110万円.
- [11] 堀 美菜：カンボジアの区画漁業権停止が資源管理と小規模漁業に与える影響調査. 基盤研究(C), 2012年-2014年, 60万円.

2) 科学研究費補助金 (専攻教員分)

〈研究代表者〉

- [1] 荻慎一郎：秋田藩領北部諸鉾山の研究. 基

盤研究 (C) , 2009 年-2012 年, 65 万円.

- [2] 蒲生 啓司: 抗社会行動を伴う発達障害の分子機構を通じた診断・治療法開発戦略の創成. 基盤研究 C, 2011 年-2013 年, 20 万円.
- [3] 原田 哲夫: 子どもの睡眠健康増進のための生理人類学的介入研究. 基盤研究 B, 2010 年-2012 年, 330 万円.
- [4] 溝渕 俊二: 黒酵母由来β-グルカンを用いた老人性乾皮症治療薬の開発. 挑戦的萌芽研究, 2011 年-2012 年, 107.5 万円.
- [5] 吉尾 寛: 《山本憲関係書簡》に残る康有為の従兄康有儀等の手紙からみた近代日中交流史の特質. 基盤研究(B), 2011 年-2015 年, 120 万円.

〈研究分担者〉

- [1] 伊谷 行: 教員の質保証に応える地域資源を活用した『土佐の環境教育』カリキュラム開発. 基盤 B, 2011 年-2013 年, 70 万円.
- [2] 片岡 万里: 単体多機能自立生活支援ロボットの本質的安全技術と知能化技術の開発. 基盤研究 B, 2012 年-2014 年, 30 万円.
- [3] 蒲生 啓司: 教員の質保障に応える地域資源を活用した『土佐の環境教育』カリキュラム開発. 基盤研究 B, 2011 年-2013 年, 480 万円.
- [4] 蒲生 啓司: 異文化理解マインド創出と国際的教員養成研究. 挑戦的萌芽研究, 2011 年-2013 年, 60 万円.
- [5] 蒲生 啓司: 日本風土の没食子インクの開発製造と美術教育への貢献. 挑戦的萌芽研究, 2012 年-2014 年, 10 万円.
- [6] 清家 章: 21世紀初頭における古墳時代歴史像の総括的提示とその国際発信. 基盤研究 A, 2011 年-2014 年, 40 万円.
- [7] 溝渕 俊二: ユズ種子オイルによるアトピー性皮膚炎症状緩和塗布剤の開発. 挑戦的

萌芽研究, 2012 年-2013 年, 50 万円.

- [8] 吉尾 寛: 土地所有権の形骸化: モンスーン・アジアの病理の解明と対策(代表 飯國芳明). 挑戦的萌芽研究, 2012 年-2013 年, 20 万円.

3) 共同研究

〈代表者〉

- [1] 木下 泉: 土佐湾における魚類再生産機構に関する研究. 西日本科学技術研究所, 2004 年-1 年, 190 万円.
- [2] 久保田 賢: 地域医療・在宅介護等に関する ICT 利活用の適用可能性に関する研究. パシフィックソフトウェア開発株式会社, 2010 年-2014 年, 20 万円.
- [3] 富永 明: 未利用生物資源からの血糖値および脂肪制御作用を持つ物質の探索. 富士産業株式会社, 2012 年-2012 年, 100 万円.
- [4] 平岡 雅規: 海洋深層水スジアオノリ・タンク養殖の研究. A 社・B 社, 2011 年-2012 年, 80 万円.
- [5] 平岡 雅規: 海洋深層水を利用したアワビと海藻の増養殖に関する研究. 室戸市, 2012 年-2012 年, 314 万円.
- [6] 平岡 雅規: 人工藻礁設置による褐藻類繁殖促進に関する研究. 四国開発株式会社, 2011 年-2013 年, 100 万円.

〈分担者〉

- [1] 石塚 悟史: 食品および食品成分が体内放射性物質の排出に与える効果の確認. 赤穂化成株式会社, 2011 年-2012 年, 0 円
- [2] 大島 俊一郎: 生分解性抗菌ナノ粒子を不織布加工技術と融合させた医療分野への商品開発および農業水産分野への新規抗菌技術開発. チカミミルテック株式会社, 2012 年-2014 年, 153 万円.

4) 共同研究（専攻教員分）

〈代表者〉

- [1] 蒲生 啓司：LC/MS 分析のための高機能性充填剤の開発. 株式会社信和化工, 2008 年－2015 年, 0 円
- [2] 溝渕 俊二：柚子の機能性についての研究. 馬路村農業協同組合, 2009 年－2015 年, 133 万円.
- [3] 溝渕 俊二：機能性素材の有効利用に関する研究. 株式会社 高南メディカル, 2012 年－2013 年, 38 万円.

5) 受託研究・奨学寄附金など

〈代表者〉

- [1] 石塚 悟史：アグリ・グリーンイノベーションを実現する生分解性抗菌ナノ粒子による農業用抗菌剤の研究開発. 横浜市立大学, 2012 年－2012 年, 220 万円.
- [2] 市村 高男：中世鬼界島の史料・遺物・遺跡調査とその学際的研究. 財団法人三菱財団, 2010 年－2012 年, 190 万円.
- [3] 上田 拓史：日本の沿岸動物プランクトン学術研究助成金. 新日本環境調査株式会社, 2012 年－2012 年, 80 万円.
- [4] 木下 泉：エツの産卵環境調査. 佐賀県有明水産振興センター, 2012 年一年, 150 万円.
- [5] 木下 泉：天然アユを守るための取り組み. 四万十市, 2008 年一年, 1100 万円.
- [6] 田中 壮太：環境保全型アブラヤシ栽培技術への提言－収穫残渣の農地施用に関する土壌生態学的評価. 2011 年度住友財団環境助成, 2011 年－2012 年, 200 万円.
- [7] 平岡 雅規：大島に適した高級海藻の増養殖に関する研究. 八幡浜市, 2012 年－2012 年, 50 万円.
- [8] 平岡 雅規：天然スジアオノリの生産量アップの実証実験事業. 四万十市・高知大学

連携事業推進会議(四万十市), 2012 年－2012 年, 152 万円.

- [9] 平岡 雅規：大型藻類培養研究助成金. C 社, 2012 年－2012 年, 300 万円.
- [10] 平岡 雅規：藻類培養. D 社, 2012 年－2012 年, 5 万円.

〈分担者〉

- [1] 大島 俊一郎：抗菌性ナノポリマーの抗酸菌に対する抗菌効果の分析・評価. 2012 年－2014 年, 115.5 万円.
- [2] 奥田 一雄：宝石サンゴの持続的利用のための資源管理技術の開発. 水産庁, 2010 年－2012 年, 80 万円.
- [3] 中村 洋平：フィリピン国統合的沿岸生態系保全・適応管理プロジェクト. JST, 2009 年－2013 年, 70 万円.

6) 受託研究・奨学寄附金など（専攻教員分）

〈代表者〉

- [1] 石川 慎吾：河川における水生・湿生絶滅危惧植物の生態学的特性と保全に関する研究. 高橋産業経済研究財団, 2012 年－2012 年, 100 万円.
- [2] 蒲生 啓司：地域・学校・教育研究機関との連携・協働に基づく自然環境と伝統文化継承を基盤とした環境教育プログラムの開発研究. 日本教育大学協会, 2012 年－2012 年, 70 万円.
- [3] 蒲生 啓司：基礎力向上を重視した地域の理科教育力向上をめざす高知 C S T プログラム. 日本科学技術振興機構, 2010 年－2013 年, 2655 万円.
- [4] 蒲生 啓司：地域および自然環境を基盤とした中山間地域での実践教育に基づく環境教育プログラムの開発研究. 日本科学協会（笹川財団）, 2012 年－2012 年, 30 万円.
- [5] 溝渕 俊二：機能性素材の有効利用に関する研究. 株式会社高南メディカル, 2012 年

－2012年, 90万円.

- [6] 溝渕 俊二：機能性素材の有効利用に関する研究. 医療法人弘心会武蔵の森病院, 2012年－2012年, 326.3万円.
- [7] 溝渕 俊二：柚子種子オイルの機能に関する研究. 株式会社 三和化学研究所, 2012年－2012年, 18万円.

7) 学長裁量経費

- [1] 田中 壮太：植物健康基礎医学拠点. 2012年, 102万円.

8) 学長裁量経費（専攻教員分）

- [1] 蒲生 啓司：地域教育の中核となる理科教員養成および教員研修のための『高知CST養成プログラム』の新展開. 2012年, 150万円.
- [2] 清家 章：高知県出土須恵器の基盤的研究プログラム. 2012年, 60万円.

9) 部局長裁量経費（専攻教員分）

- [1] 石川 慎吾：変動する環境と生物多様性－その過去と現在－. 2012年, 29万円.
- [2] 荻慎一郎：高知をめぐる戦争と交流の史的

研究. 2011～年, 0円

- [3] 蒲生 啓司：科学技術教育コースの設置に向けた先導的カリキュラム開発. 2012年, 60万円.
- [4] 清家 章：学芸員教育資料整備事業. 2012年, 100万円.
- [5] 清家 章：戦争と海洋プロジェクト. 2012年, 50万円.
- [6] 田村 安興：総合高知研究出版. 2012年, 30万円.
- [7] 吉尾 寛：臨海地域を中心とした戦争と交流. 2012年, 30万円.

10) その他の研究

- [1] 木下 泉：課題別研修（集団）海域における水産資源の管理及び培養. 研修委託, 1999年－2013年, 9000万円.
- [2] 田口 尚弘：サンゴ染色体研究. 黒潮講, 2012年, 25万円.
- [3] 石塚 悟史：簡便な抗酸化力評価用の電気化学センサー開発に関する研究.（独）科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）探索タイプ, 2012年－2013年, 0円

V. 国際・地域貢献

1. 公開講座・委員会活動等

(1) 公開講座・講演会・講習会・研修会等

○石川 慎吾

・公開講座

高知市民の大学. 公開講座, 高知市, 高知市カルポート, 2012年4月17日

○伊谷 行

浦戸湾の干潟と底生動物. 公開講座, 第71期 高知市民の大学, 高知市文化プラザかるぽーと, 2012年6月12日

黒潮の海に暮らす生き物たちー土佐湾の底生動物の生態と環境. 公開講座, 第72期 高知市民の大学, 高知市文化プラザかるぽーと, 2013年1月22日

・研修会

干潟の生きもの講座. 研修会, 鏡川自然塾, 高知大学, 2013年3月30日ー2013年3月31日

○蒲生 啓司

・その他

附属小学校夏休み自由研究親子相談会. 高知大学教育学部, 附属小学校, 2012年7月28日

○木下 泉

四万十川のアユは何故減ったのか. 九州・山口ブロック水産試験場長会内水面分科会, ホテル グランデはがくれ, 2013年2月21日

有明海のエツ. 佐賀県有明水産振興センター, 佐賀県有明水産振興センター, 2012年3月26日
エツ. 特定非営利活動法人有明海再生帰高, 佐賀大学, 2012年5月26日

亜寒帯から熱帯まで分布するアユの多様性. 四万十市, 四万十市立中央公民館, 2013年3月1日

○久保田 賢

・教育講演

上手に食べて元気に生きる. 講演, 須崎生涯大学, 須崎市立市民文化会館., 2012年5月25日

・公開講座

管理栄養士国家試験受験講座. 公開講座, 高知学園短期大学, 高知学園短期大学, 2012年10月27日

・研修会

生涯学習研修会. 研修会, 公益社団法人高知県栄養士会, 高知県立大学, 2013年2月2日

介護職講座. 研修会, RKC調理師学校, RKC調理師学校, 2012年9月1日

介護食講座. 研修会, RKC調理師学校, RKC調理師学校, 2012年7月28日

・その他

平成24年度海外学術調査フェスタ. 海外学術調査総括班, 東京外国語大学, 2012年6月30日

○新保 輝幸

第8回柏島大学. 高知大学・NPO法人黒潮実感センター, 柏島公民館2F(高知県幡多郡大月町柏島), 2012年8月29日

東日本大震災からの地域と水産業の復興: 南三陸町自然環境活用センターの現場から. 高知大学黒潮圏科学部門, 高知大学朝倉キャンパス メディアホール, 2012年8月27日

○清家 章

・教育講演

大学出前講義. 講演, 高知小津高校, 高知小津高校, 2012年6月28日

・公開講座

埋蔵文化財速報展「2012発掘とくしま」講演会. 公開講座, 徳島県埋蔵文化財センター, 徳島県埋蔵文化財センター, 2012年7月1日

○田村 安興

近代土佐の人物. 公開講座, 高知大学, 大豊町,
2012年9月15日

○原田 哲夫

・教育講演

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！保護者の皆様へのメッセージ. 講演, 高知県国公立幼稚園PTA 研究大会実行委員会, 高知大学教育学部附属幼稚園, 2012年10月30日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！その科学的根拠と具体的方策. 講演, 宝塚看護学校, 阪神看護学校, 2012年5月30日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！. 講演, 芸西小学校, 芸西小学校体育館, 2012年6月3日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！その科学的根拠と具体的方策. 講演, 中芸高等学校, 中芸高等学校, 2012年6月9日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！. 講演, 四万十町立米奥小学校, 四万十町立米奥小学校体育館, 2012年6月17日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！その科学的根拠と具体的方策. 講演, 佐川町健康フェア実行委員会, 佐川町総合文化センター, 2012年7月1日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！その科学的根拠と具体的方策. 講演, 西神看護学校, 西神看護学校講義室, 2012年11月28日

「早寝、早起き、朝ごはん」で3つのお得！その科学的根拠と具体的方策. 講演, 土佐市PTA大会実行委員会, 土佐市高岡中学校, 2012年12月1日

夜須幼稚園保護者講演会. 講演, 夜須幼稚園, 夜須幼稚園ホール, 2012年2月4日

吉川小学校教育講演会. 講演, 香南市立吉川小学校, 吉川小学校体育館, 2012年2月24日

・その他

自然環境と生活環境を考える. 高知大学主催、文

部科学省認定, 高知大学教育学部 21 番教室, 2012年8月17日

○平岡 雅規

・教育講演

四万十市・高知大学連携事業 アユ・スジアオノリ報告会「四万十川スジアオノリの特色と『これから』」. 講演, 四万十市, 四万十市立中央公民館, 2013年3月1日

スジアオノリの生育に関する温暖化の影響. 講演, 一般社団法人はな・ろま, 松崎町ヴィラ扇, 2013年3月30日

第1回八幡浜市大島水産振興検討委員会. 講演, 八幡浜市役所, 八幡浜市役所八幡浜庁舎, 2012年7月24日

○堀 美菜

・その他

2012年度 海域における水産資源の管理及び培養. 国際協力機構、高知大学、高知大学宇佐海洋教育研究施設, 2012年10月15日-2012年10月16日

○溝渕 俊二

・教育講演

第五回講演会 演題：高知県の健康食材 ～柚子とβ-グルカンに関して～. 講演, NPO 法人 食と健康を学ぶ会, 高知共済会館, 2012年10月28日 NST 勉強会. 講演, 高知大学医学部附属病院栄養サポートチーム, 高知大学医学部, 2012年9月27日

第25回四国地区 TNT 研修会. 講演, 日本静脈経腸栄養学会、アボット ジャパン株式会社, 高知大学医学部看護学科棟, 2012年11月24日-2012年11月25日

・その他

日本静脈経腸栄養学会、栄養サポートチーム専門療法士認定規則、実地修練認定教育臨地実習. 高

知大学医学部附属病院栄養サポートチーム, 高知大学医学部附属病院, 2012年6月27日-2012年7月5日

○石塚 悟史

・公開講座

高知県における再生可能エネルギーの未来. 公開講座, 高知大学国際・地域連携センター地域連携・再生部門, 土佐町保健福祉センター, 2012年7月12日

高知県における再生可能エネルギーの未来. 公開講座, 高知大学国際・地域連携センター地域連携・再生部門, 禰原町地域活力センター, 2012年11月7日

・研修会

実用化プロジェクトマネジメント. 研修会, (独) 科学技術振興機構、(財) 全日本地域研究交流協会, JST 東京本部別館 4F, 2012年7月5日-2012年7月6日

高知における次世代シナリオ“土佐の魅力と強みをどのように活かすのか”. 研修会, (独) 科学技術振興機構 (JST)、(財) 全日本地域研究交流協会, 帯広信用金庫中央支店セミナー室, 2013年2月21日-2013年2月22日

・検討会等

わかりやすい食品表示と食品表示の信頼性向上のための取組. 検討会, 中国四国農政局, 高知市中央卸売市場管理棟 3F 大会議室, 2013年2月20日

・その他

分科会 総合テーマ『コーディネータの今、明日を考える』モデレータ. 科学技術振興機構, サポート高松, 2012年11月29日-2012年11月30日

食と健康に関する震災復興プロジェクトの提案. 岩手ネットワークシステム (INS) 海洋と社会研究会、有志の会「復興支援グループ」、盛岡市産学官連携研究センター会議室, 2013年1月25日

1次産業分野の産学連携 -高知大学の取組を中心として-. 農林水産省技術会議事務局産学連携室、産学連携学会, 農林水産技術会議事務局委員室, 2012年12月19日

○市村 高男

・公開講座

尊氏を支えた東国武将たち. 公開講座, 栃木県立博物館, 栃木県立博物館, 2012年11月4日

石造物研究の現状と石川町の石造物. 公開講座, 石陽史学会, 福島県石川町中央公民館, 2012年12月16日

(2) 他大学講義等

○石川 慎吾

卒業研究, 高知大学および野外

○蒲生 啓司

自然科学概論, 高知医療学院

○木下 泉

公開臨海実習, 臨海実習, 海洋生物研究教育施設

○久保田 賢

公衆栄養学概論, 高知学園短期大学

○原田 哲夫

生活リズムと健康 (子どもの生活リズムと睡眠習慣), 京都大学共通教育 南ボヘミア大学教育学部健康教育学科

○平岡 雅規

臨海実習, 関西学院大学理工学部(実施場所: 高知大学)

○市村 高男

放送大学大学院, 放送大学高知学習センター

(3) 他機関との連携

○伊谷 行

番組作成における内容相談（干潟やその生物の解説の仕方について）. NHK, 2012年6月

浦ノ内湾の自然に関する番組作成において、干潟に関する説明、登場する生物の種名の確認など. NHK 高知放送局, 2012年9月－2012年10月

○大島 俊一郎

経営. 一般社団法人 日本アクアスペース, 2007年6月－年月

○片岡 万里

家族の会での講演と助言. 認知症家族の会, 2013年3月

○蒲生 啓司

高知大学生による『地産地生塾』での農業体験や自然観察を通しての地域との交流. 高知県日高村との地域活性化連携活動, 2012年8月－年月
高知県教育委員会との連携により、高知 CST 養成プログラムの共同開発・実施、及び公開事業『CST交流会 in 高知』（2012年7月28日開催）の実施。高知県教育委員会, 2010年7月－2014年3月

○木下 泉

課題別研修（集団）海域における水産資源の管理及び培養に関わる企画、指導、管理、コースリーダー. JICA 四国支部, 2000年6月－2013年10月

○久保田 賢

データ解析等. 経営, 技術的助言, 高知医療再生機構, 2006年2月－

○平岡 雅規

海洋生物の利用および収集についてのアドバイス. E社, 2012年4月－2012年11月

四万十川のスジアオノリの保全、生産性の向上に関する技術指導および政策の相談. 四万十市役所, 2012年4月－2013年3月

海藻の発生、成長に対する肥料の利用に関する技術相談. F社, 2012年4月－2013年3月

海藻の展示物についての相談. 北海道大学総合博物館, 2012年4月－2012年7月

新潟大学農学部卒論生に対する海藻の栄養塩吸収に関する技術指導. 新潟大学農学部, 2012年4月－2013年3月

海藻の培養についての技術相談・指導. G社, 2012年4月－2013年3月

海藻ヒトエグサ・スジアオノリの養殖に関する技術相談・指導. 熊本県水産研究センター, 2012年4月－2013年3月

海藻の培養についての技術相談・指導. H社, 2012年4月－2013年3月

海藻の培養についての技術相談・指導. I社, 2012年4月－2013年3月

修士課程学生の海藻の培養についての技術相談および指導. 中部大学工学部, 2012年4月－2013年3月

博士課程及び修士課程の学生に対する海藻の培養についての技術相談・指導. お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科, 2012年4月－2013年3月

海藻の培養についての技術相談・指導. J社, 2012年4月－2013年3月

海洋深層水による海藻生産の事業化に関する技術移転、技術相談・指導. K社, 2012年4月－2013年3月

深層水による海藻生産の事業化に関する技術移転、技術相談・指導. L社, 2012年4月－2013年3月

海洋深層水を利用した海藻およびアワビの複合生産に関する政策相談. 室戸市役所, 2012年4月－2013年3月

アオノリの養殖に関する技術移転、技術相談・指

導. M 社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
海藻の生産及び成分分析に関する技術相談. N 社,
2012 年 5 月－2013 年 3 月
海藻大量培養に関する技術移転および技術相談.
O 社 (マレーシア), 2012 年 6 月
海藻培養に関する技術移転についての相談. P 社,
2012 年 4 月－2013 年 3 月
藻場造成に関する技術移転、技術相談・指導. Q
社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
八幡浜市の離島・大島の水産振興のための海藻培
養の技術移転、技術相談・指導、政策相談. 八幡
浜市役所, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
海藻生産、収集についての技術相談. 東北大学大
学院農学研究科, 2012 年 4 月－2012 年 7 月
地下海水を利用したアオノリ養殖に関する技術
移転、技術相談・指導. R 社, 2012 年 4 月－2013
年 3 月
新規物質の海藻成長への効果に関する技術相談.
徳島文理大学薬学部, 2012 年 7 月－2013 年 3 月
深層水利用の海藻生産事業の誘致に関する政策
の相談. 高知県商工労働部工業振興課海洋深層水
推進室, 2012 年 7 月－2013 年 3 月
海藻培養についての技術相談・指導. S 社, 2012 年
7 月－2013 年 3 月
モズクに混入する海藻の同定についての技術相
談. 財団法人日本冷凍食品検査協会, 2012 年 8 月
海藻の生産及び収集に関する技術相談. 大阪府立
大学工学部海洋システム工学科, 2012 年 4 月－
2013 年 3 月
海藻培養についての技術相談. T 社, 2012 年 4 月－
2013 年 3 月
藻場造成に関する技術相談・指導. U 社, 2012 年 4
月－2013 年 3 月
陸上海藻栽培に関する技術移転、技術相談・指導.
H 社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
四万十川のスジアオノリの保全、生産性向上に関
する技術相談・指導. 四万十川下流漁業協同組合,
2012 年 4 月－2013 年 3 月

海藻生産に関する技術相談. 独立行政法人水産総
合研究センター水産工学研究所, 2012 年 4 月－
2013 年 3 月
海藻の高効率生産に関する技術相談. J 社, 2013 年
2 月
海藻にかかわるライフサイエンス事業について
の技術相談. K 社, 2013 年 2 月－2013 年 3 月
海藻の高効率生産と二酸化炭素吸収に関する技
術移転、技術相談・指導. 琉球大学工学部, 2012
年 4 月－2013 年 3 月
海藻の生産及び利用に関する技術移転、技術相
談・指導. L 社, 2013 年 3 月

○溝渕 俊二

馬路村農業協同組合と共同研究契約を締結して
「柚子の機能性についての研究」の研究題目で共
同研究を行っている。馬路村農業協同組合, 2009
年 12 月－2015 年 3 月
高南メディカルと武蔵の森病院の 3 者で共同研究
契約を締結し、「機能性素材の有効利用に関する
研究」の研究題目で共同研究を行っている。株
式会社 高南メディカル、医療法人 弘心会 武蔵
の森病院, 2012 年 4 月－2017 年 3 月
ミュージズと岡山県立大学との 3 者による共同研究
契約を締結し、「黒酵母 β グルカンを用いた塗布
剤の開発」の研究題目で共同研究を行った。株
式会社 ミューズ、公立大学法人岡山県立大学,
2012 年 4 月－2013 年 3 月

○石塚 悟史

技術相談、事業計画、販路開拓、資金調達、契約
調整など. 株式会社 H, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
健康サービス産業への新規参入に関する相談と
販路開拓など. 株式会社 KM, 2012 年 4 月－2013
年 3 月
研究シーズと企業ニーズのマッチング、技術相談
など. 四国銀行、高知銀行, 2012 年 4 月－2013 年
3 月

健康福祉事業への協力、契約調整など。株式会社 S, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 新規事業打ち合わせ、商品企画、技術相談など。AK 株式会社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 竹炭の高度利用と事業化、養殖事業についての相談など。株式会社 TN, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 研究シーズと企業ニーズのマッチング、展示会出展、技術相談など。(公財) 横浜企業経営支援財団, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 機能水の農業利用に関する技術相談。TM 株式会社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 農作物 U の栽培マニュアル作成及び商品開発の支援など。有限会社 SS, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 抗菌剤の医療・農業等への利用に関する開発支援及び技術相談等。TM 株式会社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 深層水関連商品の臨床評価に関する調査及び技術相談等。DT 株式会社, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 印刷技術の提案及び交渉等。株式会社 MM, 2012 年 11 月－2013 年 3 月
 農作物の機能性評価に関する技術相談等。SWA 株式会社, 2012 年 11 月－2013 年 3 月
 産学官民連携プロジェクトの企画・立案・推進、民間等との共同研究及び受託研究の支援、学内及び他大学との共同研究及び連携、民間等からの科学・技術相談、地域社会の諸活動に対する専門的支援等。高知県内外の企業、団体、自治体等(200以上), 2012 年 4 月－2013 年 3 月

(4) 委員会・審議会活動

1) 国内委員会活動

○飯國 芳明
 農林水産政策研究書「我が国農業分野における地球温暖化対策の評価手法の開発等に関する研究」に関する評価委員。委員, 2010 年 4 月－2013 年 3 月
 農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター「複合型船物資源モニタリング

を活用した広域連携周年放牧技術の開発と実証」評価委員。委員, 2010 年 4 月－2012 年 3 月
 高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金審査会。委員, 2010 年 4 月－1 年 1 月
 高知県木材普及推進協会改革推進委員会。委員, 2010 年 5 月－1 年 1 月
 (社)農業開発研修センター。参与, 2010 年 5 月－1 年 1 月
 地域農林経済学会。理事, 2012 年 4 月－2014 年 3 月
 科学研究費委員会。専門委員, 2012 年 12 月－2013 年 1 月
 環境政策提言推進事業四国大会審査委員会。副委員長, 2013 年 1 月－2013 年 3 月
 日本学術会議。連携会員, 2011 年 10 月－2014 年 9 月
 高知県環境活動支援センター 業務外部評価委員会。委員長, 2011 年 4 月－1 年 1 月

○石川 慎吾

高知県環境審議会。会長, 自然環境部会長, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 生物多様性こうち戦略策定検討委員会。委員長, 2012 年 8 月－2013 年 3 月
 高知県希少野生動植物保護専門委員。委員, 2012 年 4 月－2013 年 3 月
 高知県立牧野植物園評議委員会。委員, 2012 年 4 月－2012 年 9 月
 高知県立牧野植物園外部評価委員会。委員, 2013 年 3 月－2013 年 4 月
 自然環境基礎調査植生調査植生図作成業務にかかわる中国四国地区検討委員会。委員, 2012 年 10 月－2013 年 3 月
 平成 24 年度自然環境保全基礎調査植生調査に係る技術専門部会(統一凡例検討部会)。委員, 2012 年 11 月－2013 年 3 月
 野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備連絡会議。委員, 2012 年 4 月－2013 年 3 月

保護林評価のための検討委員会. 委員, 2012年4月-2013年3月
横瀬川ダム環境モニタリング委員会. 委員, 2012年4月-2013年3月
河川・溪流環境アドバイザー. 委員, 2012年4月-2013年3月
四万十アドバイザー会議. 委員, 2012年4月-2013年3月
仁淀川流域学識者会議. 委員, 2012年12月-2013年3月

○伊谷 行

四万十川河口環境検討会. 委員, 2012年4月-2013年3月
河川・溪流環境アドバイザー. 委員, 2012年4月-2013年3月
高知県教員採用試験問題の調査研究. 研究員, 2012年7月-2012年8月
科学の祭典高知大会実行委員会. 事務局補佐(会計担当), 2012年4月-2012年3月

○上田 拓史

日本プランクトン学会評議員会. 評議員, 2008年4月-2012年3月
日本プランクトン学会英文誌編集委員会. 編集委員長, 2010年4月-2012年3月
国交省『河川水辺の国勢調査 河川版・ダム湖版』動植物プランクトン スクリーニング・グループ委員会. 委員, 2012年8月-2012年3月

○大島 俊一郎

四国研究プラットフォーム「四国・住みたいまちに生きる」. 委員, 2012年4月-2014年3月

○荻慎一郎

高知県立歴史民俗資料館資料収集委員会. 委員長, 2011年4月-2013年3月
『土佐國群書類従拾遺』編集委員会. 編集委員,

2011年5月-1年1月

○蒲生 啓司

日本化学会中国四国支部化学教育協議会. 副委員長, 2012年1月-2014年1月
文部科学省教員資格認定試験出題委員. 委員, 2012年4月-2013年3月
日本質量分析学会 BMS 研究会. 世話人, 2011年1月-2015年1月
大豊町中学校外部評価委員会. 評価委員, 2012年4月-2013年3月

○木下 泉

四万十アドバイザー会議. 魚類生態学に関する学識経験者, 2007年4月-1年1月
高知県野生動植物専門家会議 汽水・淡水魚分科会. 魚類に関しての専門的アドバイス, 2007年4月-1年1月
中筋川流域委員会. 委員, 2007年4月-1年1月
横瀬川環境委員会. 委員, 2007年4月-1年1月
四国地方ダム等管理フォローアップ委員会. 依属委員, 2007年4月-1年1月
河川・溪流環境アドバイザー. 依属委員, 2007年4月-1年1月
四万十エコ・リバー研究会/自然との共生21. 委員, 2009年2月-1年1月
四万十川河口環境検討委員会. 委員, 2008年12月-1年1月

○新保 輝幸

高知海区漁業調整委員会. 知事選任委員(学識経験委員), 2012年9月-2016年8月
竜串自然再生協議会. 委員(区分: 専門家)、および実施計画作成部会委員, 2008年3月-1年1月
ヨロンの海サンゴ礁再生協議会. 委員, 2010年3月-1年1月

○清家 章

史跡渋野丸山古墳調査整備委員会. 委員, 2012年2月-1年1月
四万十市重要文化的景観整備活用計画検討会. 委員, 2012年3月-1年1月
四万十市文化財保護審議会. 委員, 2008年6月-1年1月

○関田 諭子

高知県環境影響評価技術審査会. 委員, 2000年7月-2014年6月

○田村 安興

高知県卸売市場審議会. 会長, 2012年1月-2012年12月
研修医評価委員. 委員, 2012年1月-2012年12月
高知県救急医療センター外部評価委員. 委員長, 2012年1月-2012年12月
高知市自由民権記念館運営委員会. 委員, 2012年1月-2012年12月
高知市文化振興事業団評議員会. 評議員, 2012年1月-2012年4月
高知市中央卸売市場検討委員会. 委員, 2012年1月-2012年8月
高知市国際交流委員会. 副委員長, 2012年1月-2012年6月
高知市中山間審議会. 委員長, 2012年1月-2012年12月

○平岡 雅規

大島水産振興検討委員会. 委員, 2012年7月-2013年3月

○溝渕 俊二

財団法人 防府消化器病センター 評議委員会. 評議委員, 2008年4月-2013年3月

○石塚 悟史

高知エコデザイン協議会. 幹事, 2012年4月-

2013年3月

四万十町行政改革推進委員会. 会長, 2006年8月-2012年12月

特定非営利活動法人産学連携学会. 理事, 2011年7月-2013年6月

NPO 法人食と健康を学ぶ会. 理事, 2011年8月-2013年7月

高知県公営企業局再生可能エネルギー利活用事業費補助金審査委員会. 委員, 2012年4月-2013年4月

四国地域イノベーション創出協議会. イノベーションコーディネーター, 2012年4月-2013年4月
総務省. 地域情報化アドバイザー, 2007年12月-2013年3月

高知県産学官連携会議「新エネルギー部会」. 部会員, 2012年5月-2013年3月

土佐市地域雇用創出推進協議会. 商品開発アドバイザー, 2012年8月-2013年3月

安芸市雇用創造推進協議会. 総合アドバイザー, 2012年4月-2013年3月

安芸市メガソーラー設置運営事業公募型プロポーザル審査委員会. 委員, 2012年12月

一般社団法人日本アクアスペース. 副理事長, 2006年11月-2013年3月

四万十市環境審議会. 委員, 2012年11月-2014年10月

四万十町行政評価審査委員会. 会長, 2012年1月-2014年1月

○市村 高男

史跡勝尾城筑紫氏遺跡保存整備策定委員会. 委員, 2012年6月-2014年5月

2) 国際委員会活動

なし

(5) 国際交流・国際セミナー

1) 協定校等との学術交流

○飯國 芳明

第6回黒潮圏科学国際共同シンポジウム. 共催,
ビコール大学他, 2012年12月

○大谷 和弘

アジアフィールドサイエンス実習学生の受入れ. 受入れ教員, インドネシア・タンジュンプラ大学、マレーシア・プトラ大学、フィリピン・ビコール大学、タイ・コンケン大学、タイ・カセサート大学, 2012年10月-2012年11月
学生フォーラムと熱帯農業実習への参加. 学生引率, インドネシア・ボゴール農業大、ガジャマダ大、ハサヌディン大, 2012年5月-2012年6月
インドネシア・タンジュンプラ大学での講義. 講師, インドネシア・タンジュンプラ大学, 2013年3月

○奥田 一雄

6th International conference on Kuroshio Science への参加. 共同研究に関する打合せ, フィリピン・ビコール大学, 2012年12月

○片岡 万里

研究者の受け入れ. 受け入れ研究者の研究、教育、視察等の企画、実施, イエーテボリ大学, 2013年2月-2012年2月

○木下 泉

上海での高知大学卒業生同窓会. 上海海洋大学代表: 鐘俊生博士の愛媛連大での主指導教官, 上海海洋大学, 2013年3月

○新保 輝幸

共同現地調査・研究. 調査・研究、現地協定校との調査関係の協議・交渉, フィリピン・ビコール大学, 2008年9月-年月

○田中 壮太

協定更新. 受入教員, マレーシアプトラ大学, 2012年6月

協定更新. 担当教員, スリビジャヤ大学, 2013年3月

学生実習受け入れ. 受け入れ, マレーシアプトラ大学, 2012年11月

学生研修受け入れ. 受け入れ, マレーシアプトラ大学, 2012年11月

学生実習受け入れ. 受け入れ, マレーシアプトラ大学, 2012年12月

表敬訪問. 表敬訪問, マレーシアプトラ大学, 2012年9月

表敬訪問. 表敬訪問, カセサート大学, 2012年8月

表敬訪問. 表敬訪問, マレーシアプトラ大学, 2013年3月

表敬訪問. 表記訪問, カセサート大学, 2013年3月

○富永 明

フィリピン大学 デイリマン校の Sylvano D. Mahiwo 教授と日本とフィリピンの大学交流について意見交換した。Mahiwo 教授は本学との協定校であるビコール大学アドバイザーであり、アジアと日本との国際関係の研究者なので両国の関係の発展について議論した。、フィリピン大学 デイリマン校, 2012年12月

○中村 洋平

JICA プロジェクト. 大学院生に対する研究指導, フィリピン大学, 2012年3月-2012年9月

○吉尾 寛

協定校の教員の招聘とシンポジウム立ち上げの準備. 協定校の海外特別研究員, 中国・河南大学, 2012年3月

2) その他の国際学術交流

○飯國 芳明

台湾からの研究者招聘. 招聘者, 科研プロジェクト

ト, 2013年3月

スイスにおける農業人材育成の研究調査. 調査計画の立案、実施, 科研プロジェクト, 2012年9月
韓国群山市保寧市の地域調査. 調査の立案、実施, 科研プロジェクト, 2013年2月-2013年3月

○大谷 和弘

インドネシア・タンジュンプラ大学森林学部、農学部との共同研究を開始した. 高知大学側責任者, インドネシア・タンジュンプラ大学森林学部、農学部, 2012年4月-1年

○荻慎一郎

朴慶洙（江陵大学校人文大学日本学科）教授との学术交流. 共同研究と交流（近世日本の商業流通史に関する研究）, 特になし., 2012年6月-2012年7月

○片岡 万里

タイのアジア大学との交流準備のための視察. 日本・高知県の高齢者・看護について発表、施設の視察, 高知大学看護学科教員、高知大学地域連携センター教員, 2012年8月-2012年9月

○木下 泉

バイカル湖のカジカ類と巻貝類の系統. シンポジウム招聘, 調査旅行, ロシア・アカデミー, 2012年9月

○新保 輝幸

共同の調査研究. 共同研究（現地調査など）, ビコール大学・パルティド州立大学（フィリピン）, 2005年3月-1年

○富永 明

台湾国立東華大学で海洋深層水で培養した藻類の抗アレルギー、抗がん、抗糖尿病に関する効果について講演を行った。また、共同研究の可能性

について議論した。副校長、研究開発部長、企業管理系主任秘書教授、国際学术交流ディレクター、国際長、生物技術研究所教授などと学术交流について検討した。台湾国立東華大学, 2013年3月

○中村 洋平

短期研究者招聘. 共同研究, フランス国立高等研究所, 2012年8月

○原田 哲夫

学术交流協定2機関への7月の短期訪問（学术交流打ち合わせ等：原田哲夫、辻藤子）及び10月より1年の長期滞在（学部生：辻藤子「チェコ日睡眠健康共同研究プロジェクト」派遣研究員）。
「幼児・児童・生徒・学生の生活リズム・睡眠習慣についてのチェコ日共同研究プロジェクト」代表
「ウミアメンボ類などアメンボ科昆虫の環境耐性に関する共同研究」代表, 南ボヘミア大学教育学部健康教育学科
南ボヘミア大学教育学部理科教育学科
南ボヘミア大学理学部生物科学科
チェコ科学アカデミー生物科学センター昆虫学研究所, 2012年7月-2013年3月

○木下 泉

ロシア. ロシア・アカデミー, バイカル湖博物館, バイカル・カジカの適応放散に関する研究, 2012年6月

○田中 壮太

タイ. カセサート, RFD, メジョー大, 表敬訪問・調査, 2012年8月
マレーシア. プトラ大学, 表敬訪問・調査, 2012年8月-2012年9月
マレーシア. プトラ大学, 調査・表敬訪問, 2012年2月-2012年3月
タイ. メジョー大学, カセサート大学, RFD, 調

査・表敬訪問, 2013年3月

○中村 洋平

フランス領ポリネシア・モーレア. フランス国立
高等研究院, 共同研究の打ち合わせ、施設視察,
2012年5月

3) 在外研究

○新保 輝幸

JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力
(SATREPS) 環境・エネルギー分野 (地球規模の
環境課題の解決に資する研究) 「フィリピン国統
合的沿岸生態系保全・適応管理」. 在外研究員 (専
門家), フィリピン, 2012年11月-2015年2月

○中村 洋平

JICA 専門家. 専門家指導, フィリピン, 2012年3
月

JICA. 専門家派遣, フィリピン, 2012年6月

JICA. 専門家派遣, フィリピン, 2012年9月

4) 国際セミナー等

○荻慎一郎

Luke S Loberts (ルーク・ロバーツ、カリフォルニ
ア州立大学サンタ・バーバラ校歴史学部) 教授に
よる学術講演会: 演題「日本近世政治における「表
と「内証」—「表」史料と「内証」史料について
—」. ルーク・ロバーツ教授への講演依頼と会場
設定や広報、当日の司会等、全般的な運営に従事
した。、特になし。、2013年1月

朴 慶洙 (パク・ケイシュ、江陵原州大学日本文
化学科) 教授による講演会: 講演題目は「東アジ
アの歴史紛争 (韓・中、韓・日間) について」。同
講演会の開催を人文学部に働きかけ、同教授から
の講演承諾や題目の取次ぎなど、開催にむけて同
と主催の人文学部の仲介の役割を果たした。、高
知大学人文学部, 2012年7月-2012年7月

○木下 泉

日本魚類学会年会シンポジウム: バイカル湖にお
けるカジカ類の起源, 適応放散と種分化. コンビ
ナー, 日本魚類学会, 2012年9月

○新保 輝幸

6th International Conference on Kuroshio Science. 研
究報告など, Bicol University, Kochi University and
National Sun Yat-Sen University, 2012年12月-2012
年12月

1st Regional Symposium on Coastal Ecosystem
Conservation and Adaptive Management. 研究報告,
JICA, JST, 2012年11月-2012年11月

○田中 壮太

マレーシア・アブラヤシプランテーションに関す
るセミナー. 主催, 農学部, 2012年11月

○富永 明

The 6th International Symposium on Kuroshio
Science. 高知大学黒潮圏科学関係者を代表して企
画を担当, Bicol University Tabaco Campus, Tabaco
City, Albay, Philippines, 高知大学 黒潮圏科学部門、
大学院黒潮圏総合科学専攻, 2012年12月-2012
年12月

○中村 洋平

温暖化. 招待講演, シドニー海洋研究所, 2012年
11月-2012年11月

○堀 美菜

第6回黒潮圏科学国際シンポジウム. 海外招聘者
の旅費日当管理, 黒潮圏科学部門, 2012年12月-
2012年12月

(6) 留学生・研究者受け入れ

○大谷 和弘

留学生の受入れ. バングラデシュ, 2010年4月－
2013年3月

○木下 泉

博士課程学生の指導教員. ベトナム, 2012年4
月－2012年9月

JICA「海域における水産資源の管理及び培養」コ
ース. インドネシア, ナミビア, ペルー, センク
トクリストファーネービス, スリランカ, 2012年
7月－2012年10月

○田中 壮太

留学生受け入れ. マレーシア, 2012年10月－2016
年9月

○田村 安興

協定校学生受け入れ

私費留学生受け入れ. 中国, 2012年1月－2012年
12月

○富永 明

博士課程の3年生に学位論文の指導. インドネシ
ア, 2012年4月－2012年9月

○中村 洋平

JSPS サマープログラム受け入れ教員. アメリカ,
2012年6月－2012年8月

○平岡 雅規

JICA 研修の受け入れ. ペルー, 2012年9月

(7) 管理運営

○飯國 芳明

1_全学

総合科学系・黒潮圏総合科学部門委員

全学教育機構会議委員

大学院総合人間自然科学研究科委員会委員

全学財務委員会委員

教育研究評議会委員

2_学部等

高知大学倫理・人権・苦情処理委員会委員

高知大学大学院黒潮圏科学部門「黒潮圏科学」編
集委員会委員

黒潮圏科学部門専攻学部長・研究科長

総合研究センター海洋部門海洋流域分野長委員
長

総合研究センター海洋部門副部門長委員

黒潮圏総合科学専攻・人事委員会委員長

○石川 慎吾

1_全学

黒潮圏総合科学準専攻専門委員会委員

学士課程入学試験委員会委員

入試企画実施機構委員

共通教育実施機構会議委員

不正行為通報窓口担当職員委員

2_学部等

理学部・理学部門運営会議委員

学科長・施設長会議委員

理学専攻会議委員

黒潮圏総合科学専攻会議委員

理学部人事委員会委員

理学部留学生委員会委員

理学部入試委員会委員長

理学部入学および卒業に関する委員会委員

理学部就職委員会委員

○伊谷 行

1_全学

総合研究センター海洋部門管理運営委員会委員

黒潮圏総合科学準専攻専門委員会委員

2_学部等

支援実習委員会委員

教務委員（黒潮圏博士課程）委員

○上田 拓史

総合研究センター運営戦略委員会委員
総合研究センター海洋部門会議委員
教務委員会委員

○大島 俊一郎

1_全学

評価本部委員

科学研究費等競争的資金獲得のためのタスクフ
ォース委員

国際・地域連携推進委員会委員

知的財産専門委員会委員

利益相反マネジメント委員会委員

安全衛生委員会委員

国際人材養成特別教育プログラム委員会委員

グリーンサイエンス人材育成特別教育プログラ
ム委員会委員

2_学部等

専攻人事委員会委員

教務委員会委員長

将来計画委員会委員

○大谷 和弘

1_全学

国際関係推進委員会委員

「熱帯農業に関する SUIJI(Six University Initiative
Japan Indonesia)コンソーシアム2013高知大会」
実行委員会委員

2_学部等

国際ワーキンググループ委員長

農学部総務委員会委員

農学部企画会議委員

黒潮圏科学部門企画広報委員会委員長

学部長補佐(国際担当)委員

情報公開対応ワーキンググループ委員

農学部違法薬物対策委員会委員

農学部物部キャンパス土地、建物等の安全有効利
用検討WG委員

物部キャンパス一日公開ワーキンググループ委

員

農学部就職委員会委員

○荻慎一郎

1_全学

ハラスメント等相談窓口・ハラスメント等相談員
委員

高知大学研究顕彰制度選考委員会委員

2_学部等

『高知大学人文学部人間文化学科卒業論文要旨
集 選集』編集委員会委員長

○奥田 一雄

1_全学

教育研究評議会委員

就職委員会委員

教育組織改革実施検討本部会議委員

2_学部等

黒潮圏総合科学専攻会議委員

黒潮圏総合科学部門会議委員

人事委員会委員

理学部教授会委員

理学専攻会議委員

学科長・施設長会議委員

理学専攻学務委員会委員

総合科学系教授会委員

○片岡 万里

ヒトES細胞倫理委員会委員

保健管理センター委員会委員

企画広報委員会委員

高知信用金庫・高知安心友の会医学研究基金運営
委員会委員

総合情報センター(図書館)運営委員会委員

○蒲生 啓司

1_全学

年度計画WG

研究評価 WG 委員
国際地域連携推進委員会委員
研究拠点形成 WG 委員
国際地域連携センター知的財産専門委員会委員
教育職員免許状更新講習実施委員会委員
高知 C S T 養成拠点構築事業実施委員会委員長
倫理・人権・苦情処理委員会委員

○木下 泉
2_学部等
総合研究センター戦略運営委員会委員
総合研究センター海洋部門センター長・附属施設
長等
黒潮圏総合科学専攻部門会学系長・部門長

○久保田 賢
1_全学
海洋系の新教育組織に関するワーキンググルー
プ委員
2_学部等
専攻・部門自己評価委員会委員長

○新保 輝幸
1_全学
施設マネジメント専門委員会委員
「総合的海洋管理学科（仮称）」設置についての
検討WG 委員
2_学部等
予算・施設委員会委員長
自己評価委員会委員
幹事会委員
黒潮圏科学部門人事委員会委員
黒潮圏総合科学専攻人事委員会委員

○杉谷 隆
1_全学
教職教育委員会委員
共通教育実施機構会議委員

共通教育広報部会委員
第 58 回中国・四国地区教育研究会実行委員会委
員
倫理・人権・苦情処理委員会委員
入試企画実施機構会議委員
朝倉地区安全衛生委員会委員
学士課程入学試験委員会委員
2_学部等
人間文化学科運営委員会委員
人間文化学科教務委員会委員長
人文学部教務委員会委員
人文学部運営会議委員
人間文化学科運営協議会委員長
教員選考委員会委員
人文学部入学・卒業認定等に関する審議・決定委
員会委員

○清家 章
1_全学
部局官合同研究発表会世話人委員
2_学部等
地域変動論コース 委員長
研究推進委員会委員長
高知人文社会科学会設立準備委員会委員長
ミッションの再定義作業チーム（仮称）委員
高知人文社会科学会運営委員会委員長
入学・卒業等に関する審議決定委員会委員
入学・修了認定等に関する審議委員会委員

○関田 諭子
1_全学
倫理人権苦情処理委員会委員
2_学部等
教務委員会委員

○田口 尚弘
教務委員会委員長

○田中 壮太

1_全学

生命・環境人材育成コース準備委員会委員
教育に関するポリシー検証委員会委員
科学研究費等競争的資金獲得のためのタスクフ
ォース委員

2_学部等

黒潮圏総合科学専攻教務委員委員
黒潮圏科学編集委員委員
黒潮圏総合科学専攻人事委員会委員
黒潮圏総合科学専攻専攻長選挙管理委員会委員
農学部国際ワーキング委員委員
黒潮圏科学部門人事委員会委員

○田村 安興

1_全学

評価本部委員
過半数代表者委員長
2_学部等
教務委員長委員長

○富永 明

1_全学

動物実験委員会委員長
動物実験自己点検・自己評価委員会委員
国際連携推進委員会委員
2_学部等
ヒトES細胞倫理委員会
人事委員会
黒潮圏総合科学専攻・黒潮圏科学部門幹事会学系
長・部門長
黒潮圏海洋科学部門会議学系長・部門長
黒潮圏総合科学専攻委員

○中村 洋平

人事委員会委員
予算・施設委員委員
国際WG委員

○平岡 雅規

黒潮圏企画・広報委員会委員
総合研究センター海洋生物研究教育施設 図書
委員委員
高知大学海洋生物研究報告編集委員会委員

○堀 美菜

1_全学

図書館利用者協議会委員
学生生活実態調査検討WG委員
判定資料作成専門委員会委員

2_学部等

教務委員会（物部学務課学務グループ）委員

○溝渕 俊二

栄養サポートチーム委員長
褥瘡対策チーム委員長

1_全学

就職委員会委員
利益相反マネジメント委員会委員
2_学部等
卒業研究論文委員会委員長
Faculty development 委員会委員
高知大学医学部地区研究部門形態等施設（2階）
の放射線作業管理責任者委員
臨床研究等利益相反マネジメント委員会委員
人事委員会委員
透過電子顕微鏡システム 仕様策定委員会委員

○峯 一朗

1_全学

連携FD/SD実施部会委員

○山岡 耕作

総合研究センター海洋部門管理運営委員会委員
2_学部等

総務委員会委員
黒潮圏学編集委員会委員長

○吉尾 寛

1_全学

全学教育機構会議学部長・研究科長

研究科委員会委員

教育改革検討実施本部学部長・研究科長

学士課程入試委員会学部長・研究科長

全学財務委員会学部長・研究科長

大学院入試委員会委員

教育研究評議会学部長・研究科長

2_学部等

人文学部教授会学部長・研究科長

人文社会科学専攻会議学部長・研究科長

○吉倉 紳一

1_全学

副学長委員

総合教育センターセンター長

推進本部長等会議委員

企画戦略機構委員

国際交流推進委員会委員

国際交流基金管理委員会委員

教育研究評議会委員

拡大役員会委員

センター改編検討タスクフォース委員

教育・研究等の設備の整備計画作成のためのタスクフォース委員

高知大学地域再生教育研究ルネッサンス検討会議委員委員

教育情報公開タスクフォース委員

倫理人権苦情処理委員会委員委員

全学教育機構会議委員

全学就職委員会委員長

教育に関する3つのポリシー検証委員会委員長

新学芸員資格教育課程検討WG委員長

2_学部等

理学部就職委員会委員

○石塚 悟史

1_全学

グリーンサイエンスGSコース実施委員会委員

広報WG委員

2_学部等

国際・地域連携センター運営戦略室会議委員

国際・地域連携センター知的財産専門委員会委員

企画・広報委員会委員

倫理委員会委員

○市村 高男

1_全学

共通教育委員会人文分科会委員

2_学部等

広報委員会委員

社会科教育コースのコース長委員長

大学院教育学専攻社会科教育分野の分野主任委員長

入学に関する審議決定委員会委員

(8) ボランティア

○片岡 万里

0 高知ボランティアビューロー，高知市，物資支援

国境なき医師団，高知，金銭的支援

○蒲生 啓司

地産地生塾 日高，高知県日高村，日高村メダカ調整池周辺の草刈り

○久保田 賢

よい食生活を考えるネットワーク，高知市内，食の安全・あんしんに関する学習会主催，情報交換，情報発信等

○平岡 雅規

NPO 法人 INO, 沖縄県, 社会貢献活動のアドバイス

○溝渕 俊二

NPO 法人 食と健康を学ぶ会, 高知県, 副理事長として活動している。食に関する講演会を開催したり、「リハビリキッチン」という高齢者の食を支援するユニークな活動を行っている。2012年10月28日には、高知県の健康食材の演題名で講演を行った。

○石塚 悟史

NPO 法人完全オゾン処理型循環ろ過機安全推進協議会, 高知県内, オゾン殺菌技術を用いた介護・福祉・医療分野における公益事業の支援

NPO 法人松崎武彦高知エコ基金, 高知県内, エコ活動に関する支援

土佐経済同友会, 高知県内, 企画部会、一次産業活性化委員会、産学官民連携推進委員会

土佐まるごと社中 (TMS), 高知県内, 事務局、世話人、新技術事業化研究会会長、産学官民コミュニティ全国大会実行委員会

2. シンポジウム・セミナー等

(1) 黒潮圏シンポジウム

(開催なし)

(2) 国際シンポジウム・セミナー

1) 第6回黒潮圏科学国際シンポジウム

Ecosystem Management and Conservation Towards Sustainability in the Kuroshio Region

開催日: 2012年12月2日(日) - 12月4日(火)

場所: Bicol University Tabaco Campus, Tabaco City, Albay, Philippines

主催: Bicol University, Kochi University

担当者: 富永明

参加者: 100名

プログラム:

Plenary Session:

Akira Tominaga: Anti-allergic, Anti-diabetic, Anti-tumor Effects of Algae with a Sustainable Society in View

Victor S. Soliman: Managing at the 'Root' of Kuroshio

Session 1: Fisheries-based Regional Economies and Factors Affecting Fish Production in the Kuroshio Region

• Chairs: Raul Bradecina, Evelyn C. Ame and Victor S. Soliman

Session 2: Seaweed/Seagrass Resources and Related Regional Economies

• Chairs: Kazuo Okuda, Ichiro Mine and Antonino B. Mendoza, Jr.

Session 3: Ecosystems Harboring Agriculture, Forestry and Fisheries

• Chairs: Kosaku Yamaoka, Raul G. Bradecina and Teruyuki Shinbo

Session 4: Management Practices on Land and Marine-Based Resources and the Regional Economy

• Chairs:

Session 5: Sustainable Usage of Bio-Resources for Human Health

• Chairs: Akira Tominaga, Antonino B. Mendoza and Ronnel Dioneda

Session 6: Progress in Marine Conservation on San Miguel Island and Other Related Topics

• Chairs: Yoshinori Morooka and Plutomeo M. Nieves

(3) その他のシンポジウム

(開催なし)

(4) 専攻・部門主催公開セミナー

演題: 温暖化適応プロジェクトの到達点

報告者: 飯國芳明・大島俊一郎・中村洋平・諸岡慶昇・加藤元海・堀美菜

日時: 5月16日 13:30-17:00

場所: 朝倉キャンパス総合研究棟2階会議室3

参加者: 25名

演題: 海の開発・利用に関する法制度

演者: 三浦大介 (神奈川大学教授)

日時: 7月8日

参加者: 6名

演題: 東日本大震災からの地域と水産業の復興: 南三陸町自然環境活用センターの現場から

演者: 太齋彰浩 (南三陸町役場水産業振興係長)

日時: 8月27日 16:00-17:30

場所: 朝倉キャンパス メディアホール (メディアの森6階)

参加者: 34名

演題: 東日本大震災を踏まえた南海地震への備え

演者: 原忠 (農学部准教授)

日時: 8月29日 14:00- 場所: 柏島公民館2階

(幡多郡大月町柏島 9)

参加者：45 名

演題：気候変動と石灰化する海藻類

演者：加藤亜記 (広島大学)

日時：12 月 11 日 15:00-

場所：朝倉キャンパス 理学部 1 号館 2 階 理
学部第 2 会議室

参加者：16 名

演題：海業の時代：漁村活性化に向けた地域の
挑戦

演者：婁小波 (東京海洋大学教授)

日時：1 月 25 日 15:00-16:30

場所：物部キャンパス 遺伝子実験施設 セミ
ナー室

参加者：22 名

演題：サンゴ地球環境学

演者：三ツ口丈裕 (海洋生物研究教育施設)

日時：2 月 25 日, 26 日 10:00-15:00

場所：物部キャンパス 3-1-12 教室

参加者：5 名

演題：つながるから「感じる」国際協力～「わ
たし」はなぜ国際協力に関わろうとするの
か?～

演者：向井一朗 (桜美林大学)

日時：3 月 21 日 10:30-12:00

場所：朝倉キャンパス 共通教育 311 教室

参加者：17 名

演題：「開発を巡る多様性と私達とのつながり

演者：向井一朗, 齋藤碧 (桜美林大学リベラル・
アーツ学群)

日時：3 月 21 日 13:00-16:00

場所：朝倉キャンパス 共通教育 311 教室

参加者：17 名

VI. マスコミ報道

1. 広報・啓発活動

○木下 泉

新聞. 四万十川のアユを守れ

漁業関係者ら研究報告会を開く, 2012年3月

新聞. 筑後川のシンボル, 原因不明の急減

エツの生態解明へ 県が本格調査

漁獲量の回復目指す, 2012年8月

新聞. 四万十川のアユを守れ

○久保田 賢

雑誌. 月刊ダイバー, 「土佐の海底で進む主演の交代劇. 広瀬研だよりーちょっとトリビアな無脊椎動物の話ー」の話題提供, 2013年2月

○杉谷 隆

その他. インターネット上の質問サイト, 大学における学習関連の数百件の質問に, 匿名で回答., 2010年4月

○原田 哲夫

新聞. 読売新聞 夕刊, こころ 健康のページ, 2012年8月2日「早寝、早起き、朝ごはんで3つのお得！アスリートの皆さんへのメッセージ！」リーフレットを用いた啓蒙活動, 2012年8月

新聞. 高知新聞 朝刊, 読もっか こども高知新聞, 2012年9月23日

「早寝、早起き、朝ごはんで3つのお得！」の科学的根拠と方策の子ども達への紹介, 2012年9月

○平岡 雅規

新聞. 静岡県の一般社団法人はな・ろまが実施する川ノリ陸上栽培事業を支援してきたことが2012年9月26日朝日新聞静岡版に「加工・販売開始、サブリも期待」という見出しで紹介される, 2012年4月-2013年3月

新聞. 室戸市で実施中の海藻とアワビの複合生産事業が新聞記事に取り上げられる。2013年1月

19日高知新聞で「深層水の3段活用」という見出し., 2012年4月-2013年3月

その他. インターネットテレビ, インターネットテレビの番組である“シアターテレビジョン/スカパー262ch 武田邦彦・現代のコペルニクス 38 海洋シリーズ3”に出演し海洋植物の研究について説明した., 2012年8月

その他. インターネットテレビ, インターネットテレビの番組である“シアターテレビジョン/スカパー262ch 武田邦彦・現代のコペルニクス 39 海洋シリーズ4”に卒業生が出演し、その番組取材に協力した., 2012年8月

○溝渕 俊二

新聞. 2012年5月10日に県庁記者室にて、馬路村農業協同組合長と記者会見し、翌日の朝刊で、高知新聞「ユズ種油『アトピー抑制』」を始め、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、読売新聞で取り上げられ報道された., 2012年5月

テレビ. 高知県庁記者室にて「ユズ種子オイルの抗アトピー性皮膚炎効果に関する研究」について馬路村農業協同組合長と記者会見を行ったところ、NHK および高知さんさんテレビにてニュースで取り上げられた., 2012年5月

その他. 主催/高知県・高知県産業振興センターものづくり総合技術展, 「優れた抗アレルギー効果と抗酸化力をもつ柚子由来の純国産油」のキャッチコピーで高知大学を代表して出品., 2012年11月-2012年12月

その他. 高知大学医学部・医学部附属病院 概要2012年版, 「TOPIC 07 ユズ種子オイルがアトピー性皮膚炎の症状を緩和」大学のTOPIC 20の中で紹介されている., 2012年4月-2013年3月

その他. おこうだより 第10号 平成25年3月 高知大学医学部, 研究・研究室紹介「ユズ種子オイルの機能性に関する研究」で、紹介された., 2013年3月

2. 新聞報道等

掲載日	掲載紙	【見出し】および記事の概略
2012.4.14	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】南三陸に親潮実感センター!? (神田 優:センター長)
2012.4.21	毎日新聞	【海に"森"】間伐材でアオリイカ産卵床 (神田 優:センター長)
2012.4.22	高知新聞	【イカの産卵床設置】大月小児童柏島に26基 (神田 優:センター長)
2012.4.28	朝日新聞	【里海へNPO奮闘】大月町・柏島/民間の力で環境保全 (神田 優:センター長)
2012.5.11	高知新聞	【ユズ種油「アトピー抑制」】馬路村農協と高知大医学部/マウス実験で確認 (溝渕 俊二)
2012.5.12	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】じろばち, たるばち (神田 優:センター長)
2012.6.9	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】脱皮する魚!? (神田 優:センター長)
2012.6.23	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮生物研究所】沖永良部島, 青の世界 (岩瀬 文人: 研究所長)
2012.7.7	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】「黒潮実感大賞」を創設 (神田 優:センター長)
2012.7.21	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮生物研究所】海中庭園をちぎり絵で (田中 幸記: 大学院生)
2012.8.4	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】「端っこ」でがんばる (神田 優:センター長)
2012.8.21	高知新聞	【里海の魅力広げたい】黒潮実感センター長 政府表彰 知事に報告 (神田 優:センター長)
2012.8.24	高知新聞	【27日に高知大で震災復興セミナー】黒潮圏セミナーの案内 (黒潮圏科学部門)
2012.8.28	高知新聞	【理想の地域像共有を】震災後の水産業復興でセミナー 南三陸町職員講演 (黒潮圏科学部門)
2012.8.30	高知新聞	【地震対策どうする】柏島で防災講座 (神田 優:センター長)
2012.9.1	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】島の防災を考える (神田 優:センター長)
2012.9.16	高知新聞	【持続可能な水産研究】就職先での研究紹介 (永野 一郎 (卒業生))
2012.9.29	高知新聞	【大月発くろしお便り～黒潮実感センター】砂の中のハンター (神田 優:センター長)
2012.10.10	高知新聞	【高知大教授らあす出発 東洋町から徳島, 香川へ】「海遍路」2年目の旅へ (山岡 耕作)
2012.10.12	高知新聞	【漁村文化理解深めたい】「海遍路」東洋町を出発 (山岡 耕作)
2012.10.14	読売新聞	【シーカヤックで四国漁村調査】高知大教授ら3年かけ一周 直接聞き情報を収集 (山岡 耕作)

2012.10.19	四国新聞	【シーカヤックで四国1周中「海遍路」高松に到着】おもてなし団体と交流(山岡 耕作)
2012.10.24	読売新聞	【海洋文化調査 徳島に到達】高知大教授ら「海遍路」2年目(山岡 耕作)
2012.10.27	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】柏島発,水族館行き(神田 優:センター長)
2012.11.10	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】生き物の名前を考える(神田 優:センター長)
2012.11.24	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】牧野富太郎博士と柏島(神田 優:センター長)
2012.12.8	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】再生した竜串のサンゴ(岩瀬 文人:研究所長)
2012.12.12	徳島新聞	【漁村の文化見直そう】高知大「海遍路」カヤックで牟岐到着(山岡 耕作)
2012.12.22	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】足摺宇和海国立公園40年(神田 優:センター長)
2013.1.19	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】深層水の3段活用(田中 幸記:大学院生)
2013.2.2	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】表情?豊かな「鯛の鯛」(神田 優:センター長)
2013.3.2	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】おかげさまで10周年(神田 優:センター長)
2013.3.15	高知新聞	【黒潮実感センター(大月町)表彰】地域再生ブロック賞受賞(神田 優:センター長)
2013.3.26	高知新聞	【アオリイカの"里親"になって】産卵床作り取り組み拡大を目指し,全国に里親募集(神田 優:センター長)
2013.3.30	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮実感センターー】息子は「島の子」に(神田 優:センター長)
2013.3.30	高知新聞	【大月発くろしお便りー黒潮生物研究所ー】今後も大月と共に(岩瀬 文人:研究所長)
2013.3.30	高知新聞	【高知出版学術賞に3点】「最新・高知の地質 大地が動く物語」が選出(吉倉 紳一)